

第2期
相模原市南区区民会議
活動報告書



平成26年8月
相模原市南区区民会議

ごあいさつ

第2期相模原市南区区民会議では、平成24年7月から2年間にわたり、南区区ビジョンの実現に向けて、「若い世代のまちづくりへの参画促進」について審議を行ってまいりました。

南区区民会議は、自ら実践し、検証・提案を行う機関として、第1期に引き続き、“南区版プランクスツェレ”である「わいわいみんなで語ろう Part2 ~どうする？南区・語るなら今でしょ！~」の開催や、学生の視点から地域活性化方策に関する提案をいただくため、区内大学に地域活動の調査を依頼するなど、様々な取り組みを実施いたしました。

南区だけでなく、全国各地で課題となっている「若い世代のまちづくりへの参画促進」について、協働の視点から、解決に向けた取り組みを行ったことで、若い世代の方々をはじめ、区民の皆様が、まちづくりについて考えるきっかけとなれば幸いです。

第3期におかれましても、南区の将来像である「湧きおこる7つの風 響きあう南区」を目指し、誰もが住み続けたい、活動し続けたいと思えるような魅力あふれるまちづくりに向けて、積極的な議論や活動を続けてもらえることを期待しております。

最後になりましたが、この2年間、区民会議の運営に多大なご協力をいただいた委員の皆様や地域の皆様に感謝申し上げます。

第2期相模原市南区区民会議

会 長 松 下 啓 一

目 次

第1章 南区区民会議について

- 1 区民会議とは . . . P-1
- 2 南区区民会議での検討経過 . . . P-3

第2章 第2期南区区民会議におけるテーマの検討について

- 1 テーマ選定の流れ . . . P-4
- 2 現状と課題の把握 . . . P-5
- 3 課題解決に向けた取り組みの検討 . . . P-8
- 4 区民会議の検討テーマの選定及び取り組み方法 . . . P-11

第3章 検討テーマに対する取り組み内容について

- 1 無作為抽出討議会「わいわいみんなで語ろう Part2
～どうする？南区・語るなら今でしょ！～」の開催 . . . P-12
- 2 「若い世代を取り込んだまちづくり」に関する調査業務委託 . . . P-34
- 3 Facebook ページ「相模原市南区区民会議」の開設 . . . P-42
- 4 南区若者参加プロジェクト実行委員会の設置 . . . P-45

第4章 第3期南区区民会議に向けて

- 1 第3期南区区民会議に期待する討議内容 . . . P-59

資 料

- 1 南区区民会議の開催状況 . . . P-60
- 2 南区区ビジョン（抜粋） . . . P-62
- 3 南区区民会議委員名簿 . . . P-67



本 編



第1章 南区区民会議について

1 区民会議とは

市民協働のまちづくりを進めるため、平成22年4月の区制施行に伴い、区民会議とまちづくり会議が設置されました。

区民会議は、区の課題やまちづくりの方向性について協議を行う場として各区に設置された市の附属機関です。

区民会議の構成員

委員数は25人以内とし、区内のまちづくり会議から推薦された方、区内の公益的活動を行う団体から推薦された方、学識経験のある方、区内在住の方（公募により選任）などにより構成されています。

第2期南区区民会議の公募委員は、28名の応募者の中から学識経験者2名を含む選考委員会で3名の方を選任しました。公募委員の人数及び選考方法については「相模原市審議会等の委員公募要綱」に基づいています。

まちづくり会議とは・・・

まちづくり会議は、地域のまちづくりの課題を自主的に話し合い、課題解決に向けた活動に構成団体などが協働して取り組むために、本市のまちづくりを進めてきた22の地域（南区については7つの地域）にそれぞれ一つずつ設置されています。

まちづくり会議は、自治会や地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、公民館など、各地域で活動している団体等の皆さんを中心に構成されています。

まちづくり会議との関連

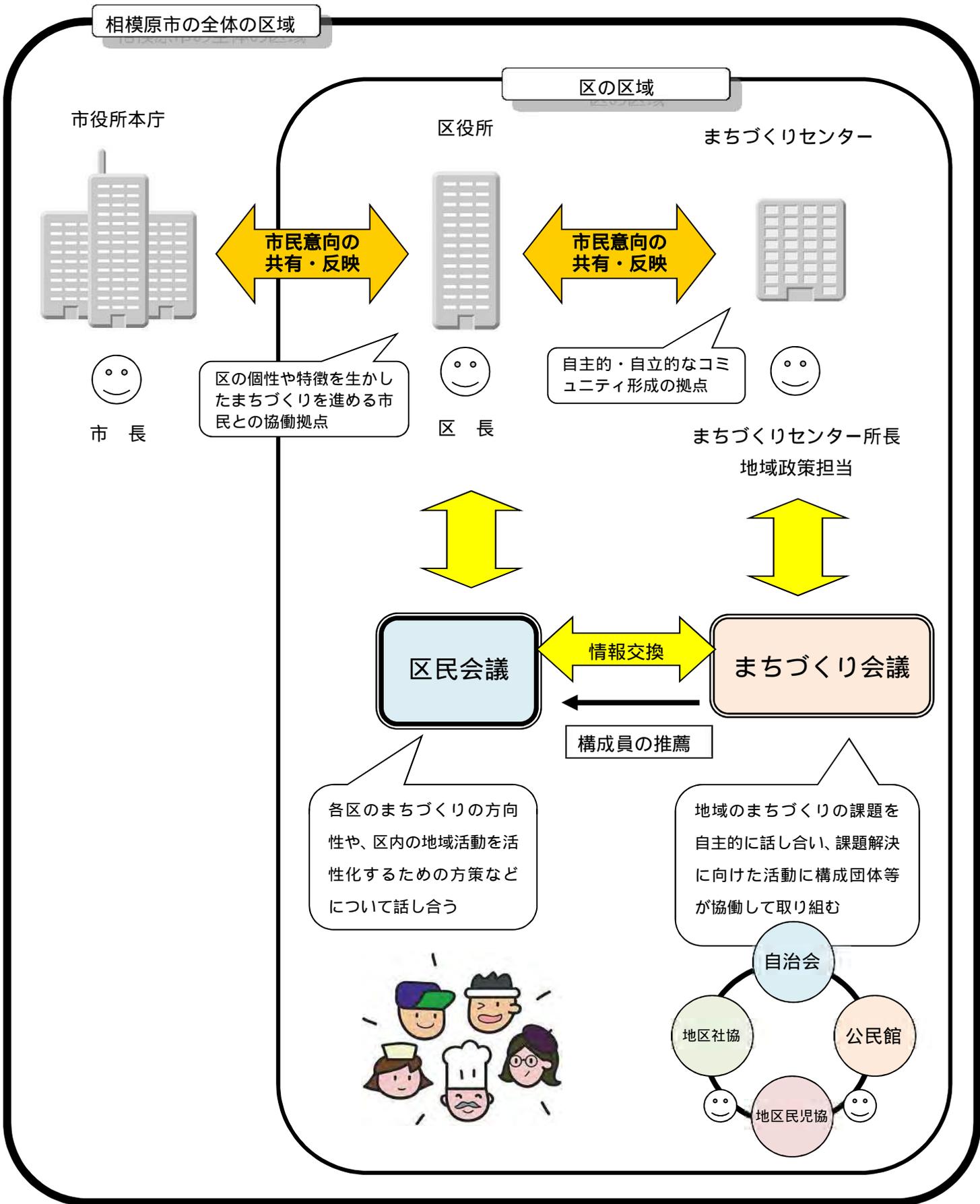
「区民会議」と「まちづくり会議」は、その位置付けや役割が異なるため両会議の間に上下関係はありません。

しかしながら、区民会議で区全体のまちづくりについて検討を進めるにあたっては、各地区で取り組むまちづくりの方向性が非常に重要となります。このため、各まちづくり会議から代表の方1名を区民会議の委員としてご推薦いただき、区民会議に参画していただいております。

また、区民会議における検討内容は、ご推薦をいただいた委員の方を通じてまちづくり会議へ報告していただき、まちづくり会議の活動内容は区民会議に報告していただくなど、両会議での情報の共有化を図っています。

「区民会議」と「まちづくり会議」の連携による市民協働のまちづくりの推進イメージは次ページのとおりでです。

市民協働のまちづくりイメージ図



2 南区区民会議での検討経過

第1期南区区民会議

(平成22年7月30日～平成24年7月29日)

区の将来像を示す「区ビジョン」の策定が主たるテーマでした。区のまちづくりの方向性を示す「区ビジョン」については、第1回区民会議(平成22年7月30日開催)において市長から諮問を受け、平成24年3月28日に市長に答申しました。

区ビジョンの策定にあたっては、「～わいわいみんなで語ろう～南区区民ミーティング」、「南区区ビジョンミーティング」などを開催し、広く区民の皆様の意見を取り入れながら検討を行いました。



第2期南区区民会議

(平成24年7月30日～平成26年7月29日)

第1期区民会議で答申した「南区区ビジョン」を推進するため、南区の現状や課題を踏まえ、若い世代のまちづくりへの参画促進をテーマに、区民の皆様とワークショップなどの意見交換を実施し、検討を行いました。



第2期南区区民会議の様子



若い世代を対象とした無作為抽出討議会の様子

第2章 第2期南区区民会議におけるテーマの検討について

1 テーマ選定の流れ

第2期南区区民会議では、南区区ビジョンを推進するため、区ビジョンに掲載されている取り組み項目をもとに、区内の現状と課題を踏まえ、第2期南区区民会議で取り組むテーマについて検討し、選定を行いました。

第1回区民会議

南区区民会議の取り組みについて



第2回・第3回区民会議

各まちづくり会議から現状と課題の報告

地域特性を生かした事業や重点的・先進的な取り組み

区ビジョンの視点から認識される課題



第4回区民会議

地域活動から見てきた南区の課題解決に向けた取り組みについての検討

各地区からの報告を受け、区民会議委員を4班に分け、ワークショップ形式により、課題解決に向けたアイデアやキーワードを抽出



第5回区民会議

取り組みテーマの選定

現状課題の把握及びワークショップでの討議をもとに、取り組みテーマを審議・選定



第2期南区区民会議 取り組みテーマ

「若い世代のまちづくりへの参画促進」

2 現状と課題の把握

第2期南区区民会議が取り組むテーマを選定するため、南区内7地区のまちづくり会議より、「地区内で行われている課題解決に向けた地域特性を生かした事業や重点的・先進的な取り組み」と「地区で認識している重点課題や区ビジョンの視点から認識される課題」の報告を受け、意見交換を通じて区民会議として南区の現状と課題の把握を行いました。

大野中地区

重点的な取り組み

- ◎消防団づくり事業
- ◎自治会加入促進事業
- ◎東清掃事業所跡地の活用
- ◎命をつなく医療情報キット配布事業

重点課題

地域防災ネットワークづくり
浸水地域と洪水地域の解消
県道52号線の拡幅

大野南地区

重点的な取り組み

- ◎自転車交通安全啓発事業
- ◎インターネット番組の制作及び番組の配信事業
- ◎県道52号線の渋滞対策
- ◎自治会加入手続きの簡素化

重点課題

災害時要援護者支援
自治会加入率向上のため、自治会の重要性や活動をPRするなどの加入促進事業を展開しているが、加入者数、加入率が伸びない。

麻溝地区

重点的な取り組み

- ◎ “いいまち あさみぞ” 安心見守りプロジェクト推進事業
- ◎ 麻溝地区防災マップ作成事業
- ◎ 麻溝地区防災協議会の設立
- ◎ “いいまち あさみぞ” 安全・安心協力員・地域声かけ運動事業

重点課題

地域団体の活動の担い手育成と地域団体が実施するイベント等の参加者の増加
災害時要援護者の避難等支援の推進
（仮称）新しい交通システム導入検討委員会への地域住民の意見の反映

新磯地区

重点的な取り組み

- ◎ 相模川芝ざくらの維持管理
- ◎ 観光の振興によるまちづくり
- ◎ 磯部頭首工の安全対策
- ◎ 史跡勝坂遺跡公園の整備促進

重点課題

登下校時の通学路における交通安全対策の強化について
脅迫や不審者に対する防犯活動の強化について
自動車と自転車運転者への安全運転の啓発の強化について
平日の昼間に大規模地震が発生した場合の体制強化について
個人情報を活用した災害時要援護者支援者の強化について
普段から地域のつながりを大切にする「共助意識」の強化について

相模台地区

重点的な取り組み

- ◎わが家の節電コンクール
- ◎放射線講座「放射線。正しく理解して、正しく恐れよう！」
- ◎相模台芸術フェスタ事業
- ◎災害時要援護者支援対策

重点課題

自治会加入率が60%を下回る状態が続いていることから加入率の向上の方策について検討する。

日常・災害時における要援護者支援対策の促進
地域防災ネットワークの構築

相武台地区

重点的な取り組み

- ◎相武台芸術祭の開催

重点課題

子育てしやすくやさしいまちづくり
健やかに暮らせるまちづくり
環境を守り育て心ふれあうまちづくり
安全で安心して暮らせるまちづくり
魅力的で賑わいのあるまちづくり

東林地区

重点的な取り組み

- ◎自治会活動等PR事業
- ◎地域ボランティア促進活動
- ◎地域防災訓練
- ◎東林いこいの広場
- ◎ヤング防災ボランティア体験教室
- ◎「東林間サマーわぁ！ニバル」における中学生サポーターの活動

重点課題

防犯・防災、環境、福祉活動等の基盤となる自治会活動の活性化を図るため、地域コミュニティの強化を図る必要がある。

高齢社会の進展に伴い、身近な場所に高齢者等が集える場所や健康づくりの場所を確保するとともに、交流サロンや相談体制の充実を図る必要がある。

若者、団塊世代の地域活動への参加機会を促進するため、地域の担い手を育成・支援する必要がある。

3 課題解決に向けた取り組みの検討

南区内の7地区からの報告により、地域活動から見えてきた南区の課題解決に向けた取り組みについて、区民会議委員がより多く発言する機会を得られるように、小グループ(4班)によるワークショップ形式で検討を行いました。

検討にあたっては、7地区から報告された現状と課題を南区区ビジョンの「第6章 まちづくりの目標と取り組みの方向、重点的な取り組み」に分類・整理し、分類された項目についてグループごとに選定し、その項目に対する“課題解決のアイデア”や“解決に向けたキーワード”を議論し、まとめを行いました。

ワークショップの結果については、次のとおりです。

区民会議(1月23日)でのグループワークにおいて提案された意見

審議事項	No.	区民会議(ワークショップ)で提案された課題解決のアイデア	解決に向けたキーワード
A班			
1 - 1 「魅力づくり事業」の充実	1	区内各拠点(駅~木もれびの森~麻溝公園など)を結ぶサイクリングロードを整備し、回遊性の向上を図る	本庁所管部局との連携
	2	高齢者が退院してからも安心して支援を受けられる仕組みをつくる	本庁所管部局との連携
	3	麻溝公園・木もれびの森など区内外に誇れる施設・場であることをさらにPRし、広場・駐車場などハードの整備を行うことで利用者の増加を目指す	本庁所管部局との連携
	4	コミュニティバスを運行し、区内交通の利便性向上を図るなど交通ネットワークを整備する	本庁所管部局との連携
	5	7つの地域の連携、情報交換を密にして協力して活性化に取り組む	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	6	広報やHPを活用し、シティセールスを積極的に行う	情報発信機能の充実
	7	子育て・災害対策・朝市など麻溝公園・競技場の平日利用の促進を図る	本庁所管部局との連携
	8	内外へのブランド力発信のため、相模原愛川インターチェンジや相模川をPRする	情報発信機能の充実
	9	地元の人材、物産、歴史、文化の掘り起こしを行い、ホームページなどで発信する	情報発信機能の充実
	10	ホームページ・Facebookを活用し、常に新しい情報を提供する	情報発信機能の充実
	11	地域のブランド力を高めるため、食品・地場産業のPRを行う	情報発信機能の充実
	12	都心・横浜へ30分、海へ30分、山へ30分という相模大野の立地の良さをPRする	情報発信機能の充実
	13	区内一斉清掃の日を設けるなど、子どもから大人まで気軽に参加できるイベントを実施し、まちづくり参加のきっかけをつくる	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	14	区外・県外からの来場者獲得と全国へのPRを目的とした若い人がたくさん集う野外イベントなどを麻溝公園等で行う	若い世代の参画
	15	区内外から人が集えるよう観光施設を整備する	本庁所管部局との連携
	3 - 2 自治会加入の促進	16	子どもが企画・運営をするイベントを実施する
17		メリット・デメリットを明確にし、自治会加入の必要性をPRする	情報発信機能の充実
18		子ども向けの事業を企画し、親子で参加してもらうことで自治会加入を促進する	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
19		気軽に外出したくなるまちとなるよう、身近な公園・ベンチ等を整備し、日常的スペースの充実を図る	本庁所管部局との連携
20		気軽に集える場の設置や共同作業を通して、地域コミュニティの形成を図る	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
21		行政・不動産会社と連携し、新規入居者への自治会加入を促進する	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
22		自治会員が享受できる損害保険制度などをつくり、自治会加入のメリットにする	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
23		自治会と商店会等が連携し、自治会員限定の店舗割引制度をつくることで自治会加入のメリットにする	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
B班			
1 - 1 「魅力づくり事業」の充実 3 - 1 担い手の育成・連携	1	バスルートの改正や地域循環バスを運行し、7地区間の交通ネットワークを整備する	本庁所管部局との連携
	2	世代間交流イベントを実施し、若者と高齢者の交流の場を創出する	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	3	若者の企画・運営によるイベントを実施する	若い世代の参画
	4	子どもから大人まで参加するごみ拾いウォーキングを各地区一斉に実施する	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	5	大学生のまちづくり活動への参加促進のため、まちづくり参加認定証を発行する 就職活動やエントリーシートでの自己PRとなり学生側のメリットにもなる	若い世代の参画
	6	活性化事業交付金の南区全体での活動に対する支援の仕組みをつくる 一つの地区でなく、南区全体での活動を支援する仕組み	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	7	区内3大学のコラボ商品の開発、区内企業での商品化を行う	若い世代の参画
	8	区民会議・まちづくり会議に若者が積極的に参加してもらう	若い世代の参画
C班			
2 - 3 災害時要援護者の支援	1	ホームページを充実させ、地域の人を知りたい情報、リアルタイムな情報を発信する	情報発信機能の充実
	2	地域や学校で防災について考え、話し合う場を設ける 防災ワークショップ	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	3	防災マップを使ったポイントラリーゲームなど、ゲーム要素を取り入れ防災マップの普及を図る	若い世代の参画
	4	地域の若者に、ボランティア活動の普及のため講習会などの実施を推進する	若い世代の参画
	5	小・中・高での防災教育の強化により、子どもたちが実際に考える場をつくり、防災意識の向上を図る	若い世代の参画
	6	うどんづくりと防災教育というように一見繋がりのないイベントを結びつけ、対象を拡大し啓発を図る	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	7	地域で活動するNPOと自治会が連携し、活動の紹介や情報交換を行う	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
3 - 1 担い手の育成・連携	8	企画から実施まで若者が中心となりイベントを実施する	若い世代の参画
	9	地域活動に参加した子どもに魅力的な景品を渡し、参加のきっかけをつくる	若い世代の参画
	10	地域で活躍している団体の活動情報をわかりやすく提供(活動の見える化)することで参加者の増加を図る	情報発信機能の充実
	11	学生が自治会に入り込んで活動できるような組織・仕組みをつくる	若い世代の参画
	12	各団体の活動発表・情報交換の場を設ける	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	13	地域情報、防災情報のアプリを作成する	情報発信機能の充実
D班			
2 - 1 自転車交通安全	1	自転車利用者が安全に通行できるよう自転車専用道路を整備する	本庁所管部局との連携
	2	交通事故を疑似体験するスクアード・ストレイトなどを実施し、交通安全意識の向上を図る	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	3	自転車交通マナー向上のため、小学校から年代別に学習の場を設ける	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	4	各地域に「交通安全母の会」を設置する	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	5	活動を地域の人たちに知ってもらうため、チラシ・ホームページ等でPRする	情報発信機能の充実
	6	各種イベントの開催時に必ず「交通安全啓発ブース」を出展するなど、交通安全の啓発事業を図る	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション
	7	交通安全教室参加時には学生がデザインしたシールやカードを配布し、参加証・認定証とすることで参加意識を高める	様々な世代・団体・事業の連携、コラボレーション

4 区民会議の検討テーマの選定 及び 取り組み方法

検討テーマの選定

ワークショップでの検討により提案されたアイデアやキーワードを集約した結果、「情報発信」「若い世代の参画」「連携・コラボレーション」の3つのキーワードにまとめ、共通する部分として、「若い世代のまちづくりへの参画促進」を検討テーマとして選定しました。

3つのキーワードに共通する考え方

「情報発信」

まちをつないでいる若い世代への情報発信

「若い世代の参画」

まちづくりへの参画、若い世代の取り込み

「連携・コラボレーション」

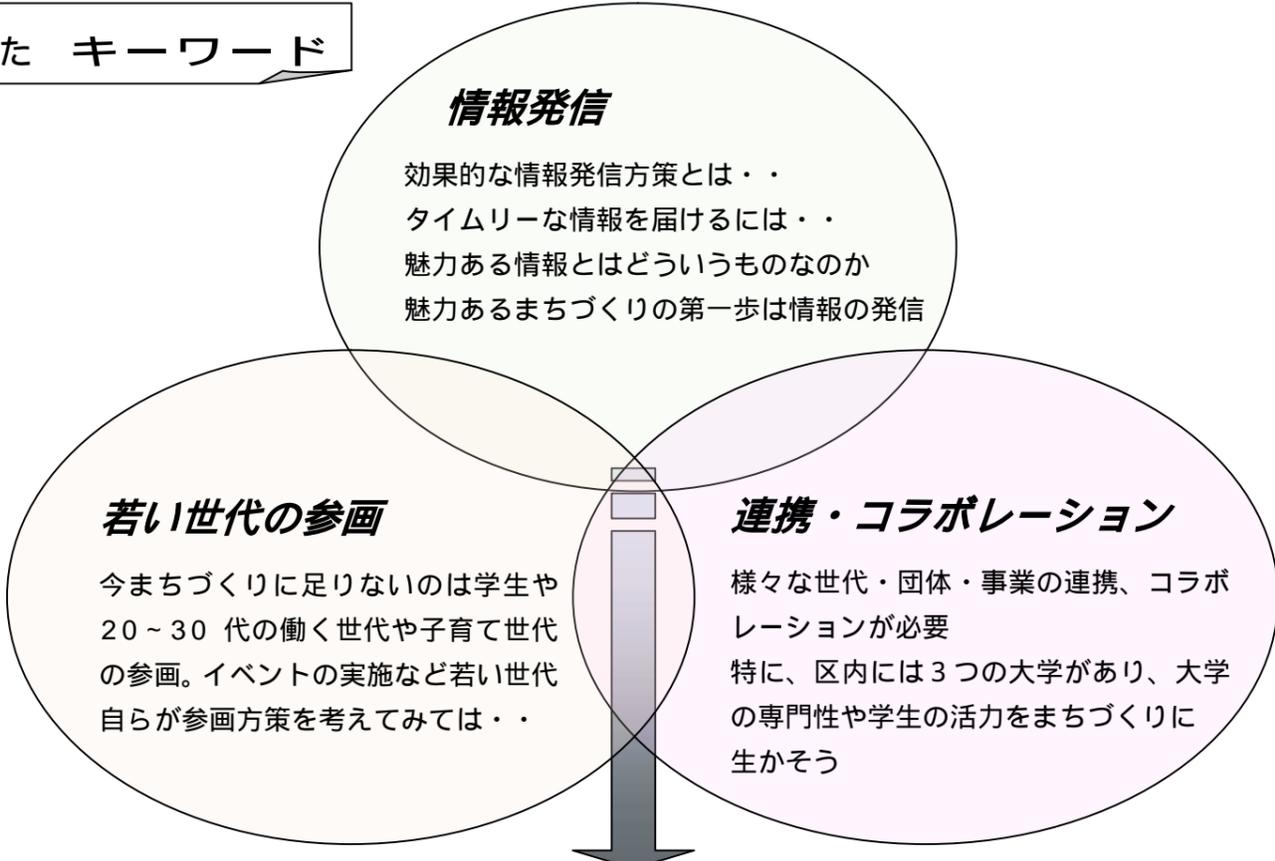
3つの大学があり、若い世代が南区に関心を持つ環境がある。

取り組み方法

「若い世代のまちづくりへの参画促進」に向けての取り組み方法については、モデル事業の実践や団体との連携・協働により、区民会議として実践することとしました。

第2期南区区民会議の検討テーマの決定及び取り組み方法

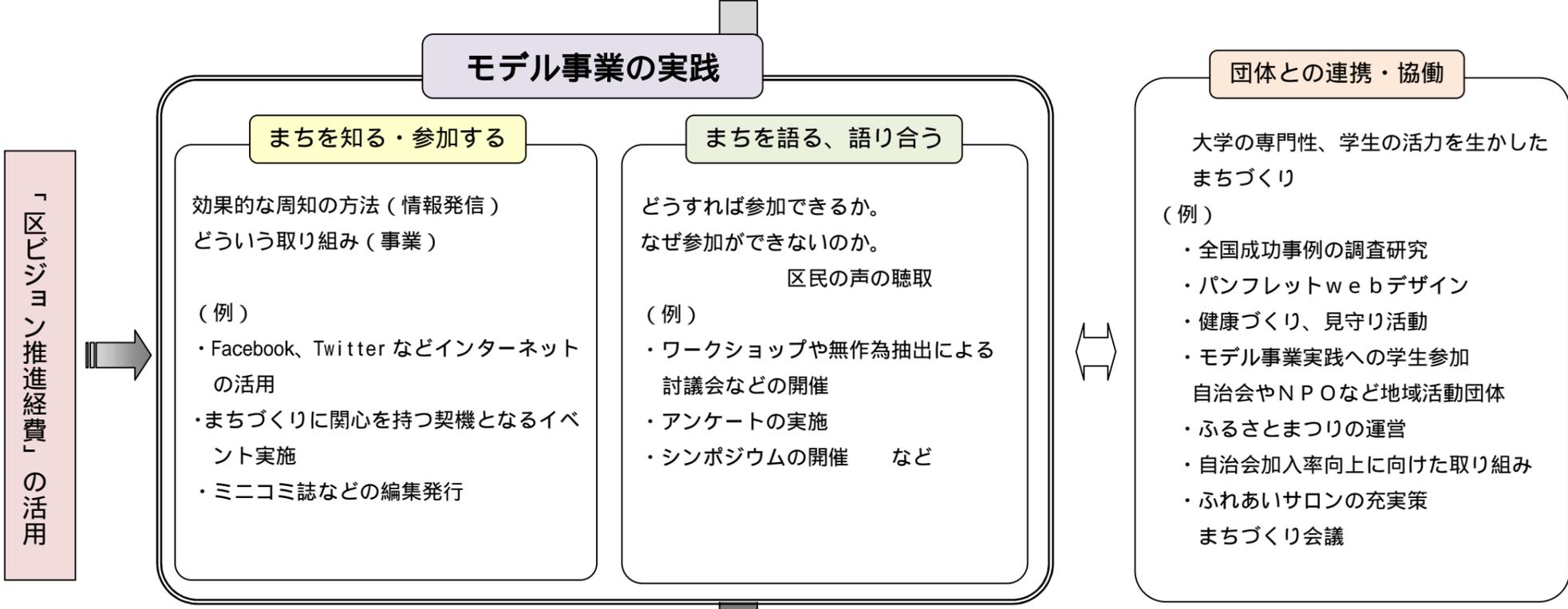
解決に向けた キーワード



第2期区民会議
テーマ

若い世代のまちづくりへの参画促進

“若い世代”・・・
10～20代の学生や、
20～30代の働く世代・子育て世代



モデル事業の検証

提言

若い世代が参画するまちづくりの実践方策

南区区ビジョン該当項目より
まちづくりの目標 「絆でつながる賑わいのまちをつくります」
取り組みの方向 - 1 「コミュニティ豊かなまちづくり」

第3章 検討テーマに対する取り組み内容について

1 無作為抽出討議会「わいわいみんなで語ろうPart2」

～どうする？南区・語るなら今でしょ！～の開催

開催の目的

この討議会は、第2期区民会議の取り組みテーマである「若い世代のまちづくりへの参画促進」を検討するため、南区民から幅広い意見を聴取することを目的として開催しました。

Q .

“無作為抽出”って？



A .ここで言う“無作為抽出討議会”は、住民基本台帳から無作為に抽出した市民の方々に、討議会の参加依頼書を送付し、その中の参加承諾者で実施する討議会を指しています。
ドイツで考案され、平均的な市民意見の収集に用いられる「プラーヌンクスツェレ」の要素を取り入れた市民参加の手法の一つです。

無作為抽出討議会について

区民ニーズに対応した行政サービスの提供と個性や特徴を活かしたまちづくりを進めていくためには、区民の皆様や各種団体との協働が重要であることから、討議会を開催するにあたり、幅広い意見を聴取でき、かつ、区民の皆様がまちづくりに参加するための手法として無作為抽出型の討議会を採用しました。

この手法の最大の特徴は、公募による参加者の募集とは異なり無作為で選ばれるため、限られた特定の人々の集団ではなく、ほとんどの場合がテーマに関して直接の当事者ではない方です。このような方が少人数による話し合いを行うことで、他の参加者の意見を十分に聴き、お互いの体験や視点を尊重しながら合意形成された意見は、利益誘導や専門家の意見のように偏ったものでなく、サイレントマジョリティー（一般市民の声なき声）を抽出できる一般的に有効な方法とされています。

なお、相模原市では、平成23年に第1期南区区民会議での「相模原市南区区ビジョン」の検討過程において、初めて南区が無作為抽出型の討議会を開催しました。

〔参考文献：「市民討議会運営マニュアル2010（（社）日本青年会議所）」〕

年齢制限について

通常の無作為抽出討議会では、基本的に年齢の上限は設けませんが、今回の討議会の趣旨が若者の意見を聴取することを目的としているため、敢えて、16歳以上39歳以下とし年齢を制限しました。

参加者の応募状況

- ア 参加依頼発送 平成25年7月25日(木)
- イ 発送件数 3,000通(うち不着16通)
- ウ 募集期間 発送の日から平成25年8月15日(木)まで
- エ 承諾者数 29名
- オ 参加決定通知発送 平成25年8月19日(月)
- カ 参加者の内訳

地区	男	女	合計	備考	10代	20代	30代
大野中	2		2	6.8%	1	1	
大野南	4	9	13	45.3%	3	5	5
麻溝	1	1	2	6.8%	1		1
新磯	1	1	2	6.8%	2		
相模台	2	1	3	10.3%		1	2
相武台	2	1	3	10.3%			3
東林	1	3	4	13.7%		2	2
合計	13	16	29		7	9	13

- キ 男女比率 男：45% 女：55%
- ク 年代比率 10代：24%
20代：31%
30代：45%
- ケ その他 保育希望者あり
子供3名(男2〔3歳・4歳〕・女1〔5歳])
上鶴間公民館保育委員会から保育委員2名を派遣しました。



無作為抽出討議会の様子(グループ討議)



無作為抽出討議会の様子(発表)

運営委員会における検討内容

第6回南区区民会議で承認された運営委員会では、無作為抽出討議会の開催方法の詳細について検討しました。

無作為抽出討議会運営委員

所 属	氏 名	所 属	氏 名
南区区民会議委員	荒 俣 大	南区区民会議委員	大 谷 聡 穂
相模女子大学	小 野 華 澄	相模女子大学	林 加 奈
相模女子大学	大 賀 ちひろ	相模女子大学	松 本 光 湖
南区役所地域政策課	田 中 俊 和	南区役所地域政策課	中 野 繁
南区役所地域政策課	野 崎 昇 司	南区役所地域政策課	原 章 裕
南区役所地域政策課	武 松 龍太郎		

(順不同敬称略)

第1回運営委員会

開催日 平成25年8月26日(月)

場 所 南区役所4階 会議室2

参加者 8名

(区民会議委員2名：相模女子大学生2名：地域政策課4名)

第2回運営委員会

開催日 平成25年9月12日(水)

場 所 南区役所4階 会議室1

参加者 7名

(区民会議委員2名：相模女子大学生6名：地域政策課3名)
相模女子大学生のうち4名はインターンシップ研修生

第3回運営委員会

開催日 平成25年9月19日(木)

場 所 南区役所4階 会議室2

参加者 10名

(区民会議委員3名：相模女子大学生3名：地域政策課4名)
区民会議委員のうち1名は南区区民会議会長

当日の参加状況

(1) 当日の参加人数 19名【29名】

(2) 参加者等の分析

地域別の性別・年代別の参加内訳

地区	男	女	合計	備考	10代	20代	30代
大野中	(2) 2		(2) 2	6.8% 10.5%	(1) 1	(1) 1	
大野南	(4) 2	(9) 4	(13) 6	45.3% 31.8%	(3) 2	(5) 2	(5) 2
麻溝	(1) 0	(1) 0	(2) 0	6.8% 0.0%	(1) 0		(1) 0
新磯	(1) 1	(1) 1	(2) 2	6.8% 10.5%	(2) 2		
相模台	(2) 1	(1) 1	(3) 2	10.3% 10.5%		(1) 0	(2) 2
相武台	(2) 2	(1) 1	(3) 3	10.3% 10.5%			(3) 3
東林	(1) 0	(3) 4	(4) 4	13.7% 21.0%		(2) 3	(2) 1
合計 (人)	(13) 7	(16) 12	(29) 19		(7) 5	(9) 6	(13) 8

上段()内の数字は参加承諾者数

性別 男性：7名(36.8%)【13名(44.8%)】
女性：12名(63.2%)【16名(55.2%)】

年代別 10歳代：5名(26.3%)【7名(24.1%)】
20歳代：6名(31.5%)【9名(31.0%)】
30歳代：8名(42.2%)【13名(44.9%)】

【 】内は参加承諾者の数値

参加者の経緯

南区内に在住の16歳以上39歳以下の男女3,000名を、住民基本台帳から無作為に抽出し、参加のお願い通知を送付したところ、29名の参加承諾(承諾率0.96%)があり、承諾者へ開催通知及び参考資料(南区区ビジョン)を送付しました。

その後、開催日までに欠席連絡があった者3名、当日欠席者が7名いたため、最終参加者は19名(参加率0.63%)となりました。

保育サービスの実施...利用者3名(3歳~5歳児)

子育て世代の方が参加しやすいように、3歳から未就学児を対象に保育のサービスを行いました。

保育は、上鶴間公民館保育委員会の委員2名に依頼しました。

傍聴者 9名

協力員

区民会議委員の有志と相模女子大学 人間社会学部社会マネジメント学科 松下ゼミの学生が各班にファシリテーターとして加わり、討議会の進行を行いました。

無作為抽出討議会 協力委員

所 属	氏 名	所 属	氏 名
南区区民会議委員	赤 司 澄 子	南区区民会議委員	飯 田 美津雄
南区区民会議委員	石 井 正 彦	南区区民会議委員	白 井 憲 二
南区区民会議委員	鈴 木 節 子	南区区民会議委員	肥 田 悟
相模女子大学	岡 田 あずさ	相模女子大学	紅 林 愛 里
相模女子大学	小 杉 香 葉	相模女子大学	佐 藤 恵
相模女子大学	服 部 栞 奈	相模女子大学	吉 野 実 花

(順不同敬称略)

テーマ選定の理由

討議テーマ 「若い世代のまちづくりへの参画促進方策の検討」

相模原市では、平成24年8月に南区のまちづくりの指針を示した「南区区ビジョン」を策定し、4つの目標と約150項目にわたる取り組み方針を定めました。

この区ビジョンに位置づけられた事業を実施するため、南区区民会議ではテーマを設定して事業を推進していくこととなり、ワークショップ等を経て南区の特徴や課題点からテーマを検討した結果、「地域の活性化や担い手を育成するためには、若い世代がまちづくりに参画してもらうことが重要である。」として、「若い世代のまちづくりへの参画促進」が区ビジョン推進のテーマとなりました。

若い世代にまちづくりへ関心を持ってもらうためにはどのような事業を実施したらよいか、若い世代の方に直接聞いてみる必要があるということから今回のテーマとしました。

学生の参加について

討議会には、相模女子大学人間社会学部の学生が参加し、進行や各班のとりまとめ等をお願いしました。

これは、今回のテーマでもある若い世代にまちづくりに参加してもらうための課題や改善方法について、学生の視点から検証するために、南区が相模女子大学に対して調査研究を委託したことによるものです。

討議会の流れ

当日の討議会は、概ね次のような進行で進められました。

9時45分	参加者受付
10時00分	開会 挨拶 工程説明 趣旨及び検討テーマの説明
10時30分	討論会開始 討論テーマの決定 モデル事業の検討 討論結果のまとめ
14時00分	討論結果の発表 班ごとに発表 質疑・応答
15時30分	投票 同意した意見（発表）に投票
15時50分	講評
16時00分	閉会

各班から出された具体的な意見

〔 A 班 〕

情報発信は十分に行う。
さんまを配る
イベントの内容を整理してまとめる
世代を絞ったイベントの実施
歴史調査による名産品の開発
米軍との交流
若者の居場所づくり
近隣市町とのイベント
都市、自然、どちらを売りにするか
地域がなくても暮らして行ける。役割が必要。

〔 B 班 〕

大型ビジョンの使用
ローカルテレビの活用
フェイスブックの活用
ツイッターの活用
ポスター掲示による情報発信
回覧板の活用
風船（バルーン）の活用
ものづくり大会（紙飛行機大会）の開催
南区マラソンの実施
婚活パーティーの開催
ゴミ拾い・落書き消しイベントの実施
南区のゆるキャラづくり
イメージづくり事業
異業種交流会の開催
企業向け説明会の開催
大学生が卒業しても南区に残る仕組みづくり
インターナショナルな雰囲気づくり

〔 C 班 〕

イベント用アプリの開発
育児イベントの実施
市民が楽しむイベントの実施
保育園と年配者の交流
防災のまちづくりが必要

〔 D 班 〕

リツイートの利用
若者が集まるイベント
フリーマーケットの開催
大人と子どもと一緒に参加できるイベント
既存イベントとのコラボ
住みやすく、困るところはない。けど、つまらない。
駅近に子育て広場のようなものがない
若者が欲しいと思うものがたりない
安いもの、一日楽しめるものは町田にある

〔 E 班 〕

Web の活用
SNS の運営
口コミサイトの運営
地区マップの充実
町田とのタイアップ
若者が参加するイベントの実施
ダンス発表や大会開催
駅弁的なグルメ
7 地区の名産品
7 地区のゆるキャラ製作
すべてがわかる道の駅
インカレサークルの活用
こども会、若い親の組織
リニアの観光客を集められる場所

テーマの設定

各班から提案された意見を分類ごとに集約し、各班へテーマとして設定しました。

班	A班
検討テーマ	情報発信（インターネット系）
意見の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信は十分に行う ・ローカルテレビの活用 ・ツイッターの活用 ・リツイートの利用 ・SNSの運営 ・大型ビジョンの使用 ・フェイスブックの活用 ・イベント用アプリの開発 ・Webの活用 ・口コミサイトの運営

班	B班
検討テーマ	情報発信（マップ系）
意見の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示による情報発信 ・風船（バルーン）の活用 ・回覧板の活用 ・地区マップの充実

班	C班
検討テーマ	イベント開催
意見の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・さんまを配る。 ・世代を絞ったイベント ・ものづくり大会（紙飛行機大会） ・南区マラソン ・ゴミ拾い・落書き消しイベント ・市民が楽しむイベント ・フリーマーケットの開催 ・大人と子どもが一緒に参加できるイベント ・既存イベントとのコラボ ・若者が参加するイベント ・イベント内容の整理 ・婚活パーティー ・育児イベント ・若者が集まるイベント ・町田とのタイアップ ・ダンス発表や大会

班	D班
検討テーマ	南区の名産品
意見の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史調査による名産品の開発 ・南区のゆるキャラづくり ・イメージづくり事業 ・7地区の名産品 ・すべてがわかる道の駅 ・駅弁的なグルメ ・7地区のゆるキャラ

班	E 班
検 討 テ ー マ	世代間・地域間交流
意 見 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米軍との交流 ・ 近隣市町とのイベント ・ 企業向け説明会 ・ インカレサークルの活用 ・ 若者の居場所づくり ・ 異業種交流会 ・ 保育園と年配者の交流 ・ こども会、若い親の組織

〔その他の意見〕

- ・ 都市、自然、どちらを売りにするか。
- ・ 地域がなくても暮らして行ける。役割が必要である。
- ・ 大学生が卒業しても南区に残る仕組みづくり
- ・ インターナショナルな雰囲気づくり
- ・ 防災のまちづくりが必要
- ・ 住みやすい、困るところはない、けど、つまらない。
- ・ 若者にとってのニーズがたりない。安いもの、一日楽しめるものは町田にある。
- ・ リニアの観光客を集められる場所



無作為抽出討議会の様子（質疑応答）



無作為抽出討議会の様子（提案への投票）

参加してみませんか？



わいわいみんなで語ろうPart2

～ どうする？南区・語るなら今でしょ！～

南区をどんな“まち”にしたい？

わくわくするまちに
したいよね！



こうすれば
もっといいかも!?



僕らの意見も
聞いて！

みんなのはなし、聞かせてよ！

日 時	平成25年9月22日(日)	午前10時～午後4時
場 所	相模原市立市民・大学交流センター ユニコムプラザさがみはら セミナールーム	
主 催	相模原市南区役所・相模原市南区区民会議	
お問合せ	相模原市南区役所地域政策課 相模原市南区相模大野5-31-1	
電 話	042-749-2135	
F A X	042-749-2116	

○各班の検討と発表内容



① 情報発信（インターネット系）の方法について

- ・南区のホームページ、フェイスブック、ツイッター、ラインなどを活用する。
- ・ホームページは誰でもアクセスできるが、フェイスブック、ツイッターは登録する手間がある。興味がないと積極的に情報を知ろうと思わない。
- ・スマホの利用者が増えているのでアプリは効果的である。
- ・使いたいとき、いつでも、どこでも活用できる。
- ・フェイスブック、ツイッター、ラインは個人情報の入力が必要であるが、アプリなら個人情報の安全性も担保できる。
- ・アプリは配信するだけの一方通行であることがマイナスである。
- ・若者が地域に参加するための有効な手段であると思う。

どのような内容にするか。

- ・地域情報アプリの作成
- ・役所のつくるホームページは堅苦しくてあまり見ない。
- ・南区のイベント情報、お買い得情報を発信する。
- ・アンケート調査により、ニーズを把握し内容を決定する。
- ・登録者を増やすための、お得情報や特典を付与してはどうか。

どういう方法で

- ・行政が発信するが、地域の若者や学生にデザイン・レイアウトをお願いしたらどうか。
- ・各学校がデザイン・レイアウトしたものをコンテストするののいいのでは。



モデル事業（案）
「南区地域情報アプリ制作」

【A班の発表内容】

わいわいみんなで語ろうPart2～どうする？南区・語るなら今でしょ～
A班

<当初メンバー> :
<変更後メンバー> :
<協力委員> 相模女子大: 岡田 南区区民会議委員: 赤司
<テーマ/分類> 情報発信 (インターネット系)
<モデル事業名> 南区地域情報アプリ制作

<事業内容>
誰が 地域の若者(学生)
・地元(学校)などでコンテストを実施したり...
いつ、どこで
いつでも・どこでも!
なにを 南区の情報
(イベント情報・お得情報)
どのように
・他のツール(Twitter・FB等)に比べ、安全性が高い。
・アンケートで反応もさぐる
・登録する特典

<投票欄> 合計 11 票

【A班への質疑・応答】

具体的には、どのようなアプリをつくるのか。内容やデザインは？

若い世代が興味を持つよう、企画段階から若者に加わってもらい、コンテストなどで内容を決定していく。

発信手段をアプリにした理由とメリットは？

方法をアプリとしたことについては、登録の手間が無いことが一番のメリットだと考える。また、個人情報の面でもアプリなら安全性が高い。

どうしたら、若者に興味を持っていただけるかが問題であり、やはり作成段階から参加してもらうことが大切である。



情報発信（マップ系）の内容について

- ・区民のニーズに合わせた内容であることが大切
- ・子育て世代や外国人、若者といった各世代等のニーズに合わせる必要がある。
- ・例えば、ウォーキングコースマップなどには、子どもが歩けるか、子ども用トイレの場所などの情報がないため、参加できるどうかの判断ができない。
- ・区内在住者でも、昔から住んでいる人と最近越してきた人では、欲しい情報は異なると思う。

作成方法

- ・アンケートで応募者を募り、ボランティアで作成してはどうか。
- ・外国人用のマップを作成するにも、外国人がどのような情報が欲しいかわからないので、外国人自身に作成に参加してもらう必要がある。
- ・今回の討議会のように、個別に「 をやって欲しい。」という具体的な案内を送付すれば参加者は増えるのではないか。

配布する時期や場所

- ・3月から4月のように、新生活が始まる時期や引越しが増える時期に配布する。
- ・新しい施設が完成したときに配布する。
- ・配布する場所も世代に合わせる必要がある。



モデル事業（案）

「ニーズに合わせた情報マップづくり」

【B班の発表内容】

<変更後メンバー> : <協力委員> 相模女子大: 萩林 南区区民会議委員: 飯田, 石井	
<テーマ/分類> 情報発信 マップ系	
<モデル事業名> ニーズに合わせた情報マップ作り	
<事業内容>	
誰が 子育て・外国人若者世代など" 世代ごとに手紙を送り、 世代ごとで作成(ボランティアで募集)	
いつ、どこで 配るのは新しいタイミングで(新施設オープン, 新生活) 配る場所 配布する場所も世代にあわせる (病院, 子どもセンター, 不動産, 駅構内)	
なにを ニーズに合ったマップ ・子育て(子供が歩ける距離か? 子どもセンター, 遊ぶ場所, トイレ) ・外国人(何がニーズなのか? 何の情報を知りたいか?) ・前から南区に居住している人、住み始めた人)	
どのように 個別で案内を手紙で送り、マップ作成に協力 また、情報を提供してもらう。	
<投票欄>	合計 17 票

【B班への質疑・応答】

ボランティアはどのように集めるのか?

今回の討議会のように、無作為抽出で案内を送付しようと考えている。



～どのようなイベントが考えられるか。(コンセプト)

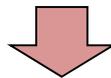
- ・既存のイベントを巻き込む
- ・市民(学生を含む)がつくるイベントがコンセプト
- ・子育て世代の楽しめるイベント。保育スタッフの設置も必要。
- ・高齢者も楽しめるイベントなら医療スタッフも必要。北里大学の学生にお願いできないか。
- ・イベントのデザインを女子美の学生にお願いする。
- ・小中学生を参加させる。模擬店などを出展することで職業体験にもなる。
- ・企業にも参加していただき、学生のメリットになるパイプも作りたい。
- ・区民の、区民による、区民のための区民祭
- ・来場者による相互扶助の体制づくり(子育て、高齢者のケアなど)

開催場所・時期

- ・春～初夏の過ごしやすい時期がいい。
- ・毎年、実施するのも大変なので、オリンピックのように4年に1回の開催がいい。
- ・場所は、麻溝公園競技場が広くていい。

イベントの内容

- ・キッズスペースを学生ボランティアが運営する。
- ・7地区の既存イベントを、各地区で同時開催し、スタンプラリー形式としてはどうか。
- ・ゴルフ大会
- ・3大学合同の学園祭
- ・釣りイベント



モデル事業(案)
「区 民 祭」

【C班の発表内容】

わいわいみんなで語ろうPart2～どうする？南区・語るなつてしよ～

C 班

<当初メンバー> : [REDACTED]

<変更後メンバー> : [REDACTED]

<協力委員> 相模女子大: 小杉 南区区民会議委員: 白井

<テーマ/分類> イベント開催

<モデル事業名> 区民祭

<事業内容>

誰が

若い世代を 巻き込む	親が やる	学生	小中学生	自治会	保育 スタッフ	医療 スタッフ
		子育て 世代	高齢者	企業	若い 世代	若い 世代

いつ、どこで

春夏 1回	麻溝台 陸上競技場	相模川 沿い
----------	--------------	-----------

なにを

区民の 区民による 区民のための 区民祭	親親	子ども	小中 学生
	企業	高齢者	子育て 世代
			市外

どのように

東林 おあそび ニバル	大風 祭り	芝桜 まつり	お城 まつり	もんじ	子育て 世代の イベントに スタッフを 活用	子育て 世代の イベントに 活用	子育て 世代の イベントに 活用
区民が つくる キッズスペース	おひ 大会	学祭	釣り 大会	運動 大会	マリバーフ マラソン 大会	子育て 世代の イベントに 活用	子育て 世代の イベントに 活用

<投票欄> 合計 23 票

【C班への質疑・応答】

市外の方の参加は可能か？

可能。

若い人をイベントへ参加させる方法は？

参加しない理由としては、興味がない、会場までの交通の便が悪いことが原因だと思われるので、子ども連れや学校単位を対象にする。子どもが参加すれば、親や祖父母が見に来る。

子育て世代を参加しやすくするために、子育てサポートを行う。



班検討内容

「南区にはどんな名産品・場所があるか。」

- ・相模大野駅はアクセスがよい。
- ・相模大野駅は、江ノ島線と小田原線の分岐点であり珍しいポイントであり、鉄道ファンが注目する場所である。
- ・相模大野駅を活用する

相模大野駅を活用して何ができるか。

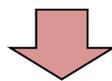
- ・相模大野駅限定の駅弁、キャラ弁の作成
- ・南区限定「さがみバーガー」の開発
- ・相模大野駅構内にギャラリーを設置し、写真展示を行う。

どのように作るか

- ・お弁当の場合は、中身を小学生に考えてもらい、中高生にはパッケージを考えてもらう。
- ・コンテスト形式にしてもいい。

対象は？

- ・相模大野駅を利用する通勤客や観光客、南区民



モデル事業（案）

「玄関口としての南区～いろいろなものを受け入れる～」

【D班の発表内容】

わいわいみんなで語ろうPart2～どうする？南区・語るなら今でしょ～

D 班

<当初メンバー> : [REDACTED]

<変更後メンバー> : [REDACTED]

<協力委員> 相模女子大: 佐藤 南区区民会議委員: 鈴木

<テーマ/分類> 名産品

<モデル事業名> 玄関口としての南区 いろいろなものを受入れる

<事業内容> → 駅弁 (お土産) → 電車、鉄道

誰が 対象者
 住民向け・観光客向け・通勤客向け
 (鉄道ファン)

いつ、どこで
 相模大野駅 改札内

なにを
売り物
 ・ 駅弁 (キャラ弁) ギャラリー
 ・ さがみバーガー (駅)電車の写真 etc.

どのように
 ・ 駅弁 → 相模大野駅 限定 + ロマンズカー
 ・ さがみバーガー → 南区 限定
 ・ ギャラリー → 相模大野駅 改札内の乗換口

<投票欄> 合計 **22 票**

【D班への質疑・応答】

駅弁などに入れる具材は何？

たまご街道の「卵」利用や「相模大野もんじえ祭り」でのB級グルメをPRしたい。

現在の南区の名産品は何？また、それを活用しないのか？

話合いの中では出なかった。これから新しく作る観点で考えた。

相模の大塚サブレや最中はあるがインパクトがない。



① 交流とは何か。

- ・ 交流とは、住民同士の摩擦や地域の分離を防ぐものだと思う。
- ・ 米軍に対しては、あまりいいイメージをもっていない方もいると思うが、それは今まで交流が少なかったための偏見であるかもしれない。理解を深めることが大切である。

② どのような交流があるか。

- ・ 異世代、同世代、外国人との交流、地域との交流など様々な形態があると思う。

③ 開催方法はどのようなものか。

- ・ 南区が主催となり、公民館や国連と共催する。
- ・ 大学生を巻き込んでどうか。
- ・ 米軍や外国人を含めた実行委員会を設置してはどうか。

④ 実施の時期はいつごろか。

- ・ 他のイベントと被らないように、3月か12月がいいと思う。

⑤ 場所はどこがいいか。

- ・ 相模原麻溝公園競技場
- ・ 相模大野中央公園

⑥ どのような内容にするか。

- ・ ファミリーで楽しめる内容のもの
- ・ スポーツ大会だと、経費もあまりかからないし、外国人の方も楽しめるのではないかと。
- ・ マラソン大会などは成功例が多い。
- ・ 屋台の出店
- ・ アフリカンフェスティバル



モデル事業（案）

「異文化交流」

【E班の発表内容】

わいわいみんなで語らうPart2～どうする？南区・語るなら今でしょ～

E 班

<当初メンバー> : [REDACTED]

<変更後メンバー> : [REDACTED]

<協力委員> 相模女子大: 服部, 吉野 南区区民会議委員: 肥田

<テーマ/分類> 交流

<モデル事業名> 異文化交流

<事業内容>

誰が <主催> 南区

<協賛> 公民館・国連

いつ、どこで

3・12月 麻溝公園競技場
相模大野中央公園

なにを

スポーツ大会

どのように

お互いの実行委員を募集
屋台・音楽等を通して文化交流

<投票欄>
合計 26 票

【E班への質疑・応答】

会場を相模原麻溝公園と相模大野中央公園としているが、その理由は？

相模原麻溝公園競技場は広いので、スポーツを行うのに適している。相模大野中央公園は駅から近いので利便性がよい。

国連との共催とは？

WFPという国連の機関でインターン研修を行ったが、PRのため地域と交流するための準備はあるという話を聞いたため、めずらしい機関なので提案してみた。

無作為抽出討議会における考察及び反省点

ドイツから始まったプラーヌクスツェレ（無作為抽出型の市民参加）は、日本でも広く行われるようになりました。同時に日本の変容もしています。ドイツでは、単に市民が参加するシステムにとどまらず、決定システムとしても使われていますが、日本では、新しい人を発見するシステム、自由に意見を言うあうシステムとして発展しています。

南区では、平成23年に相模原市南区区ビジョンの検討過程において、初めて無作為抽出型の討議会を開催いたしました。この時も、こうした集まりに参加するのは初めてという市民が多数でした。今回も、南区の会議に参加するのは初めてという人がほとんどとなりました。

今回は、無作為抽出の対象を16歳から39歳としました。若い人の意見を聞くという趣旨から、このような方式を採用したものです。

こうした試みは、恐らく、日本では初めての取り組みになるかと思えます。これができれば、子どものいる若い夫婦、単身の高齢者といった、テーマにあわせたさまざまな抽出が可能です。今後につながる無作為抽出型の市民参加になったと思います。

私たちは、この会議を単なるイベント、あるいはやりっぱなしにしないように特に配慮しました。楽しかったというだけでは、税金の有効活用という点では不満が残るからです。

この会議の提案を受けて、事業化に向けた仕組みを用意し、動き始めました。また、参加した市民についても、今回だけの参加にしない工夫をしました。参加者に今後も声をかけてよいか希望を聞きました。全員が声をかけてほしいと回答をいただいたのはうれしい限りです。

同時に、いくつかの課題も残っています。最大の問題は有償制です。周知のとおり、ドイツにおいては有償ですが、だから日本でも有償とすべきという単純な議論を私たちはとりません。多くのボランティアが無償で行われている現実や税金を払う立場で考えると、有償にするには一定の条件があるからです。

議論のなかで、地域の商店街等に還元できる商品券のようなものを考えられないかといった提案がありましたが、区民会議では、制度を詰めるところまではいきませんでした。今後、無作為抽出型の市民参加が増えていくなかで、私たちの提案も含めて、行政全体で本格的な議論を期待します。

平成26年3月
相模原市南区区民会議
会長 松下 啓 一

2 「若い世代を取り込んだまちづくり」に関する調査業務委託

目的

南区区民会議の取り組みテーマである「若い世代のまちづくりへの参画促進」の事業方策を検討するため、南区内及び全国の事例調査などを実施し、学生の視点での地域活動活性化の方策を提案することを目的としています。

受託者

相模女子大学

(人間社会学部社会マネジメント学科 松下啓一ゼミ生 10名)

委託期間

平成25年6月20日～平成26年3月31日

内容

1. 地域活動の現状調査
2. 区内地域活動への参画
3. 市民意見の聴取

各項目の具体的な内容については、35ページ～41ページのとおりです。



学生の参画（相武台芸術祭）



学生の参画（帆かけ舟復元実演会）

1. 地域活動の現況調査

若い世代をまちづくりに取り込むための方策を提案するため、相模原市南区及び、全国の地域活動事例を調査していただきました。

1. 大学を核としたまちづくり（石川県金沢市）

学生のまち推進条例に基づき、「学生がまちを学びの場または交流の場としながら、まちなかに集い、市民と親しく交流し、地域における活動等に取り組むほか、市民、町会等、高等教育機関、事業者及び市が一体となって学生の地域における生活、自主的な活動等を支援することにより、学生と市民との相互の交流及び学生とまちとの関係が深まり、にぎわいと活力が創出されるまちをつくろう」というもの。

2. 若者会議によるまちづくり（新潟県燕市）

若者の声をまちづくりに生かすため、若者が参加しやすく、主体性を持つ新しいまちづくりのプロジェクトとして、つばめ若者会議を立ち上げた。

つばめ若者会議は、「若者自らが暮らし、そして子どもたちに引き継ぎたい20年後の燕市はどんな町が良いか」を語り合い、その実現のために行動していく若者によるまちづくりの場であり、理想とする20年後の燕市の将来像・未来ビジョンとビジョンを実現するための行動計画・アクションプランの策定を議論している。

3. 自治会のNPO化による若者参加（山形県東置賜郡川西町吉島地区）

川西町吉島地区では、“若者が地域のことに関わるのは当たり前”という従来の地域コミュニティや社会教育の枠を超えた地域の支えあい活動を広域的に展開するため、2007年9月に吉島地区の全世帯加入のNPO法人「きらりよしじまネットワーク」が設立された。

きらりよしじまネットワークの事務局には次代を担う若い世代を登用し、30年先を見据えた地域づくりに向けて活動している。

世代間交流やコミュニケーション力の向上に向けた野外活動体験型プログラムである青少年健全育成事業や、学校と連携したボランティア活動の受け皿となるボランティア養成事業を通じて、次世代の人材発掘や持続的な育成に取り組んでいる。

2. 区内地域活動への参画

学生がそれぞれ希望する地域活動に企画段階から参画し、現状の把握と、若い世代の視点から見た課題点等の整理を行いました。

各団体に、学生の受け入れに関する照会を行い、9団体から受け入れ希望がありました。

相模原よさこいRANBU! 4名

8月5日(月)第4回実行委員会

9月2日(月)第5回実行委員会

9月9日(月)役員会

9月14日(土)前日準備

9月15日(日)相模原よさこいRANBU!【雨天のため中止】

会場案内、アナウンスなどを担当

帆かけ舟復元実演会 3名

7月25日(木)準備会・役員会

7月28日(日)舟おろし

7月31日(水)新磯の名所めぐり

8月3日(土)前日準備

8月4日(日)帆かけ舟復元実演会



帆かけ舟復元実演会

来場者受付、会場案内、記録写真の撮影などを担当

相武台芸術祭 3名

7月17日(水)第1回実行委員会

8月8日(木)第2回実行委員会

9月17日(火)第3回実行委員会

10月23日(水)第4回実行委員会

11月11日(月)第5回実行委員会

11月27日(水)会場視察

12月2日(月)第6回実行委員会

12月14日(土)前日準備

12月15日(日)相武台芸術祭



相武台芸術祭

もえぎ台小学校会場内の「おもいで館」の企画検討や受看板作成、受付、PRを担当

3. 市民意見の聴取

「若い世代のまちづくりへの参画促進」について調査・検証した結果に対して、幅広い意見を聴取するために「若者のまちづくり参加促進を考えるフォーラム」を開催しました。

こうした若者のまちづくり参画に関する実践的試行から得られた課題点等について、若者・区民会議委員・行政職員がともに話し合う場として「若者のまちづくり参加促進を考えるフォーラム」を企画・実施しました。

実施概要

(1) 実施日時・会場

日時：平成 26 年 3 月 6 日（木）15:10～16:40

会場：相模女子大学グリーンホール 多目的ホール

(2) 参加者・グループ構成

参加者：合計 33 名

内 訳 区民会議委員：20 名、若者：6 名、市職員：5 名

区民会議会長、ファシリテーター(フォーラム企画・進行)

グループ構成：5 班構成（A～E 班）

…各班 6～7 名、様々な立場からの意見が交わせるよう、各班とも委員 4 名、若者 1～2 名、市職員 1 名が混ざり合う形としました。

フォーラムのプログラム・進め方

(1) プログラムの考え方・準備

このフォーラムは、平成 25 年度に実施した学生によるまちづくり参加の実践的活動をよりよい形で今後に活かせるよう、できるだけ生に近い情報を関係者が共有できる場とするとともに、現場の実感・実体験をベースとした議論が展開できるようなプログラムを企画しました。

参加者が今回の実践的活動における実感・実体験に基づいて議論を展開できるようにするための準備として、事前に、1) 地域活動に参画した若者、2) 若者をまちづくり活動に受け入れた地域の方 への「本音アンケート」を実施し、若者と地域住民からいただいた回答についてとりまとめを行いました。

工夫した点としては、上記「本音アンケート」に基づき、「ミナミちゃん」(若者)、「チイキくん」(地域住民)という架空のキャラクターの言葉に変換し、若干のフィクション性を加えた資料とすることで、生々しくも抑制の効いた本音の話し合いができるように配慮しました。

成果のまとめ

1) 話題提供・情報共有、2) 自己紹介、3) 各自「イチ押しカード」の記入、4) 意見交換の順で進め、最後に今回の成果のまとめとして、各班の「話し合いの中で特に盛り上がった点」「特に大事だと思った点」について、松下会長によるインタビュー形式による発表を行いました。

【各班の発表のポイント・会長コメント】(:区民会議委員、 :若者の発言)

A班

○ 若者に参加してもらうには、まずいろいろ情報を流さないといけない。そのための若者向けの情報ツールが必要だと思う。

良い意味で若者に丸投げしてやってもらうくらいのことがないと、まちは分らない。分らなければ愛情(愛着)も湧かない。

地方都市でも若者が歴史ある行事を伝承している。そういった取組みを、一つひとつ続けていくことが重要。地元の若者が継続的に、自由に参加できるシステム・仕組みがあるとよい。

世代別の「まちづくり連絡協議会」のようなシステムがあると良いと思う。

“ 堅い ” ものでなく、緩やかなつながりを創出する必要があると思う。

自分のことを知ってほしいならば、まず自分が相手に興味を持つべき。

あらゆる世代が共通の認識を浸透させることは難しいと思う。

若い世代に漠然と意見を聞くのではなく、事前説明が必要だと思う。

地域に若い世代の意見を聞こうとする姿勢がなければ、参加してもらっても成果が出ないと思う。

会議の堅苦しいイメージでは意見が出にくいと思う。地域の方々が若い世代の中に入って意見交換を行うのも良いと思う。

学生の参加を増やすのであれば、目に付きやすいPRを行ったり、部活・サークルに声をかけるのは有効だと思う。

地域活動への参加は学生にとっても有意義なので、プラスの面をPRすべき。

参加してくれた若い世代の思いを反映させられる体制が必要だと思う。

若者に参加してもらうには、事前に情報提供を行う必要がある。

従来の情報発信に加え、若い世代向けの情報発信を行う必要がある。

企画から運営まですべて若い世代に任せた取組みを実施するのも良いと思う。

行政や大人の枠で考えると、答えばかりを求め、きれいにまとめることに注力しがちであるが、そういった点を見直す必要がある。

B班

- 地域住民と若い世代が共通認識を持てるのか疑問に思う。
若い世代は、地域のことを知らない者もいるので、理解を深める時間がほしい。
若い世代が何に興味を持っているのかわからない。
人が集まっているところには何らかの興味を持っているのではないか。
既存のイベントに参加してもらうよりも、イベントを立ち上げて企画・運営してもらう方が魅力ある取り組みになると思う。
地域に参画するきっかけづくりが重要だと思う。

C班

- 地域の方々から感謝の言葉などをかけられると達成感や役に立てた実感が湧き、うれしい。
お互いに言葉に出さないと伝わらないと思う。また、お互いに聞く耳を持つことが重要だと思う。
言葉に出すことでコミュニケーションが図られ、参加意欲の向上など、次につながると思う。
お互いの気持ちを理解する場が必要だと思う。
初めて参加した会議では地域のことかわからず、話についていけないので取り残された感じがした。
地域と学生の双方に有意義な取り組みにするため、地域活動に参加すると就職活動でプラスになったり、学校の単位になるといったような学生にとってのインセンティブを与えるべき。
若者がやりたいことを企画してもらうのも良いが、防災に関する取り組みなど必要とされている活動に参加することも大事だと思う。

D班

- 会議の中で“例年どおり”という言葉が出ると、初めて参加した者は議論に入りづらい。
学生の意見を取り入れるためには、意見を出しやすい雰囲気づくりが大事なので、1回目の会議は、前年のイベントでの参加者アンケート（「よかったこと・わるかったこと」など）の結果を共有するなどして、出席者全員が

会議に入りやすい進め方をしてはどうか。

「例年どおり」も悪いことばかりではない。地域で積み上げてきた好評なイベントなどに対して「例年どおり」と言うこともあると思う。

学生は仲間と一緒にだと意見を出しやすい面もある。みんなで参加して、みんなで考えて意見を言えれば一人ひとりに聞くよりもっと早く意見が出しやすいと思う。

地域活動の参加者ひとりひとりに役割や居場所が必要。

参加のきっかけは何でも良いと思う。参加できる機会をつくることが重要。

参加学生への事前説明が不足していたと思う。

会議で“例年どおり”という言葉が出ると、学生は議論に入りづらい。

計画段階から参画することで、やりがいや楽しさを感じられると思う。地域や学校のサポートがさらに必要になるが、整えるべき仕組みだと思う。

気軽におしゃべりをする機会など、事前にコミュニケーションをとる機会があると、会議もスムーズに進めと思う。

若い世代のまちづくりへの参加は切実な課題なので、学生に対する期待が先行しすぎている。期待の高さが負担になってしまうのではないか。

若者の意見を吸い上げる受け皿が不足していると感じた。

学生から意見を引き出すには、雰囲気づくりも重要だと思う。祭りの開催時にアンケートをとり集計するなど、最初の会議で前回の反省点や特色などを共有する場を設けることで、会議に入っていくやすくなると思う。

学生は仲間と一緒にだと意見が出やすいと思う。

学生によるまちづくり連絡協議会などがあれば、多くの学生を巻き込んで楽しみながら検討を進める流れができると思う。

E班

□ 地域活動に参加した学生がやりがいや楽しさを感じられることが重要だと思う。

大人の考えだけでは視野が狭くなりがちなので、学校でイベントを企画する授業などがあると、学生も参加しやすいと思う。

若い世代は、自分のやりたいことがイベントとして実施されたら参加すると思う。

学生だけでなく、仕事を持つ若い世代にどのように呼びかけるかが課題だと思う。

若い世代に地域活動に参画してもらうならば、事前にその活動に関する情報提供が必要だと思う。

地域活動に学生や先生を取り込み、ファンを増やすべきだと思う。ファンを増やすことが新たな担い手につながる。

若い世代に参加してもらう際に、具体的な役割や活動内容を伝えることで若い世代の意識が変わると思う。

学生のやりがいや楽しさを感じてもらうために、普段経験できないことを実施するのが良いのではないか。

学生だけでなく、若い社会人なども参加しやすいイベントをつくることが課題だと思う。

【総 評】

- ・今回の企画をつくる時、「学生と地域が一緒にやるのは異文化交流だ」という言葉が出た。同じ立場に立っていると思うから、(必要な説明の)話を飛ばしてしまったり、みんな分かっているつもりになってしまう。しかし、異文化だと思えば、新しい関係や気持ちも出てくるし、配慮したり注意したりするようになる。各班の発表でもそういう話が多く出た。
- ・これから若い人達にまちに関心をもってもらうことは欠かせない。若い人達が経験や体験もなく大人になっていくと、20年、30年先は恐ろしいことになってしまう。若い人達にとっても社会全体にとってもプラスになることなので、区民会議としても、若い人達がまちに参加する、地域が若い人達を受け入れるための土壌づくり、文化づくりのスタートや一翼を担っていきたい。もう文化づくりの領域に入ってきている。
- ・今日のような話し合いの場をつくると、本音が出てくる。もちろん相手に配慮した本音だが、そういう場をこれからもつくっていきたい。学生も、今日のような話し合いの場ならば、「みんな考えていることは同じ」と思ったりするだろう。「異文化の壁」は意外と近いと思うかもしれない。今日は、そう思える場になったと思うので、もっとこういう仕組みをつくれればと思う。



「若い世代のまちづくりへの参画促進」に向けた具体的な仕組みづくりが必要

3 Facebook ページ「相模原市南区区民会議」の開設

背 景

Facebook や Twitter に代表されるネットワークサービスは近年、若い世代を中心に利用者が急増し、民間企業や自治体などで、情報発信手段として幅広く活用されるようになっていきます。

若い世代が積極的に参画できるまちづくりを推進するうえで、区ホームページや広報紙などに加えて、若い世代が受け取りやすい情報発信を行うことが必要と考えました。

目 的

南区区民会議の活動を広く区民に発信することによって、まちづくりを身近に感じてもらうとともに、若い世代が受け取りやすい情報発信を行うことを目的としています。

運用の手順

- (1) 試験運用として、当面の間、情報の発信及び更新作業は南区区民会議委員からメール等にて南区役所区政策課に提供された情報をもとに、南区役所区政策課と運営委員で行う。
- (2) 一定期間の試験運用を経て、以後の運用に関する検証を行い、南区区民会議委員による運用に移行する。
- (3) 試験運用期間中は、発信内容について、事前に課長または担当課長、南区区民会議会長の承認を受ける。



Facebook ページ「相模原市南区区民会議」

運用状況

	掲載日	掲載タイトル・概要
1	平成25年12月11日	「第9回区民会議を開催しました」
2	12月15日	「相武台芸術祭が開催されます」
3	12月25日	「相武台芸術祭が開催されました」
4	12月25日	「クリスマスゴスペルライブ2013を開催します」
5	12月26日	「クリスマスゴスペルライブ2013が開催されました」
6	12月27日	「南区インフォメーションBOX～女子美術大学学生展示 準備中～」
7	12月27日	「南区インフォメーションBOX～女子美術大学学生展示 展示中～」
8	平成26年1月6日	「相模大野のお正月が開催されます」
9	1月9日	「南区役所区民課 窓口混雑情報配信サービス」
10	1月14日	「南区在住 遠藤彰子さんについて」
11	1月14日	「相模大野のお正月が開催されました」
12	1月20日	「南区区ビジョンって？」
13	1月22日	「南区の将来像について」
14	1月29日	「相模原ギオンフィールドの整備が進んでいます」
15	1月31日	「サガミオージョがやってきました」
16	2月5日	「自治会に加入しましょう」
17	2月8日	「南区学生自転車会議が表彰されました」
18	2月25日	「南区少年野球春季大会が開幕します」
19	3月4日	「第10回区民会議を開催します」
20	3月11日	「南区若者参加プロジェクト実行委員会が始まりました」
21	3月12日	「第10回区民会議を開催しました」
22	3月27日	「第2回南区若者参加プロジェクト実行委員会を開催しました」
23	5月1日	「木もれびの森ガイドについて」
24	5月1日	「区民会議の委員を募集しています」
25	5月16日	「相模台インターナショナルフェスタが開催されます」
26	7月11日	「南区が映画のロケ地になりました」
27	7月11日	「SC相模原とノジマステラ神奈川相模原を応援しよう」
28	7月18日	「相模女子大学生がフォーラムを開催します」

「いいね！」件数



169件（平成26年7月30日現在）



Facebook ページ
「相模原市南区区民会議」



相模原市南区区民会議 Facebook 活用に関するガイドライン

- 1 当アカウントを活用して情報を発信できる者は、南区区民会議委員および南区役所区政策課職員とする。情報を発信する場合には、南区区民会議委員および南区役所区政策課職員であることの自覚と責任を持つ。
- 2 基本的人権、肖像権、プライバシー権、著作権等に関して十分留意する。特に人物が特定できるような写真の使用にあたっては、相手方に了解を得るなど、取り扱いに留意する。
- 3 発信する情報は正確に記述するとともに、その内容について誤解を招かぬよう留意する。また、一度ネットワーク上に公開された情報は完全に削除できないことを理解しておく。
- 4 発信する内容は、南区区民会議の活動情報、南区の事業に関する情報やイベント情報、地域の話題など、区のまちづくりや魅力づくりにつながる情報とする。
- 5 投稿内容と関係のないコメント等が寄せられた場合には、運営委員の判断により「非表示」または「削除」することができるものとする。
- 6 寄せられた意見等については、原則回答しないものとする。
- 7 次に掲げる情報は発信しない。
 - (1) 不敬な言い方を含む情報
 - (2) 人種、思想、信条等の差別、または差別を助長させる情報
 - (3) 違法行為または違法行為をあおる情報
 - (4) 単なる噂や噂を助長させる情報
 - (5) わいせつな内容を含む情報
 - (6) 守秘義務に関する情報
 - (7) 市及び他者の権利を侵害する情報
 - (8) 特定の者の利益の増進に寄与する情報
 - (9) その他公序良俗に反する一切の情報
- 8 当アカウントのパスワードは厳重に管理する。

4 南区若者参加プロジェクト実行委員会の設置

1. 目的

「南区区ビジョン」に基づき、区民と行政が一体となって区の個性や特徴を生かしたまちづくりを推進するにあたり、第2期南区区民会議のテーマである「若い世代のまちづくりの参画促進」を図るための事業を若い世代が主体となって企画・実施することを目的とする。

南区区ビジョン（一部抜粋）

取り組みの方向 コミュニティ豊かなまちづくり

【地域の担い手の連携】

【区民の連携】

【若者等あらゆる世代の区民意見の反映】

【大学との連携による地域づくり】

2. 構成委員（委員名簿については次ページ参照）

- ・区内在住の若い世代の方（無作為抽出討議会参加者）
- ・区内大学（北里大学・相模女子大学・女子美術大学）の在学生
- ・区内高校の在学生
- ・区民会議委員
- （・事業に関わりのある団体など）

3. 任期

役員の任期は、平成28年3月31日までとする。

より多くの方々に参画していただくため、委員の任期は設けていない。

4. 主な事業内容（予定）

- ・若い世代のまちづくり参加促進に係るイベントの企画・実施
- ・実行委員会の活動周知・PR
- ・若い世代の意見聴取の場となるワークショップなどの企画・開催
- ・区民会議との連携
- ・区の魅力づくり事業との連携
- ・区内大学との連携

南区若者参加プロジェクト実行委員会 委員名簿

(順不同・敬称略 平成26年7月29日現在)

	氏名	所属等	備考
1	田中 慎也	無作為抽出討議会参加者	委員長
2	岡田 春菜	相模女子大学生	副委員長
3	川崎 怜	女子美術大学生	会計
4	風間 理紗	無作為抽出討議会参加者	監事
5	飯田 美津雄	南区区民会議委員	監事
6	白井 麻美	無作為抽出討議会参加者	
7	鈴木 悠嵐	無作為抽出討議会参加者	
8	高橋 友樹	無作為抽出討議会参加者	
9	戸張 健司	無作為抽出討議会参加者	
10	中島 謙介	無作為抽出討議会参加者	
11	高橋 莉奈	北里大学生	
12	津田 真里	北里大学生	
13	土本 千恵	北里大学生	
14	川辺 香	女子美術大学生	
15	河野 怜衣子	相模女子大学生	
16	白岩 はるな	相模女子大学生	
17	小林 彩加	相模女子大学生	
18	豊島 千里	相模女子大学生	
19	水越 唯仁	相模女子大学生	
20	大谷 かな穂	区内高校生	
21	荒俣 大	南区区民会議委員	
22	有泉 健一	南区区民会議委員	
23	飯野 明子	南区区民会議委員	
24	大谷 聡穂	南区区民会議委員	
25	白井 憲二	南区区民会議委員	

第1回 南区若者参加プロジェクト実行委員会

日 時：平成26年3月2日（日）

午前10時～12時

場 所：南区地域福祉交流ラウンジ

（ は若い世代、 は区民会議委員、 は事務局の発言）

【南区若者参加プロジェクト実行委員会の目的について】

イベントの開催だけではもったいない。

イベントの開催は「若い世代のまちづくり参加促進」をするための1つの手段。情報発信など他の事業にも関わっていくべき。

何のためにイベントをするのか。

- ・地域の担い手育成のため？
- ・若い世代に地域に住み続けてもらうため？
- ・区（市）外から人を呼び込むため？

対象は誰なのか。

- ・区（市）内の若い世代？
- ・区（市）民全体？
- ・市外の人？

「若い世代のまちづくり参加促進」とは、“若い世代に運営に携わってもらうこと”なのか、“若い世代の来場者を増やすこと”なのか。

若い世代といっても、学生・社会人・主婦などいろいろなので、様々な立場の人を巻き込みたい。

地域が良くなるためには、地域のことを本気で考える人が何人いるかだと思う。この取り組みを通して、地域のことを考える人を増やしたい。

【イベントの企画内容について】

区内大学生は市外から通っている学生が多いので、相模原市や南区には関心・愛着が薄い。

地元愛を醸成するには、スポーツイベントなど主体的に参加できる事業を実施すべき。

住んでいる地区には愛着があるが、市（区）には愛着が薄い。＝地域ブランドがない

イベントの実施を通して、連帯感や普段交流できない方々とのつながりを創出したい。

多くの若い世代の意見を集めるならば、中学校や高校でアンケート調査を実施してはどうか。地域参加へのきっかけになると思う。

子育てサークル同士の情報共有の場や保育バザーや相模大野で電車に関連したイベントを実施できると親子で参加すると思う。

社会人は、日ごろ家と会社の往復のみで、他との交流が少ない。いろいろな人との交流やつながりが良い刺激になると思う。

近年、健康志向が強くなっているので、子どもからお年寄りまで幅広い世代が体を動かすイベントが良いと思う。

ベッドタウンである相模原に若い世代の居場所をつくるイベントにしたい。

イベントの集客率が事業成功の基準ではないと思う。イベントの企画・実施を通して、若い世代が実行委員としてまちづくりについて考えることが事業の成功にあたると思う。

【今後の方向性について】

目的や対象などのビジョンを明確にし、実行委員で共通認識を持って企画の検討・実施を進めていくことで合意。



南区若者参加プロジェクト実行委員会の様子



南区若者参加プロジェクト実行委員会の様子

第2回南区若者参加プロジェクト実行委員会

日時：平成26年3月21日（金）

午前9：30～

場所：南区地域福祉交流ラウンジ

【テーマ】

若い世代が考える『南区の誇れるところ・足りないところ』

【主な意見】

南区に住んでいるが“おすすめ”が挙げられない。

南区のことを知らないと感じた。

まちを知るきっかけがない。

まちづくりとは何なのか？

“住みたい”と“住んでいて楽しい”は違うと思う。

特色や独自性がなくても愛着は生まれると思う。

- ・見慣れた景観
- ・尾心地の良さ
- ・人とのつながり・コミュニティ

ベッドタウンであることは必ずしもマイナスではないと思う。

ベッドタウン＝安心感

理想を目指すのではなく、既存のまちを生かすのが良いと思う。

まちについて語る場所があるから、まちが成長していけるのだと思う。



若い世代に南区をもっと知ってもらう必要がある。

実行委員が南区を知る必要がある。

南区を知り、魅力をPRすべき。

若い世代に向けた南区を巡るツアーを開催してはどうか。

第3回南区若者参加プロジェクト実行委員会

日時：平成26年4月20日（日）

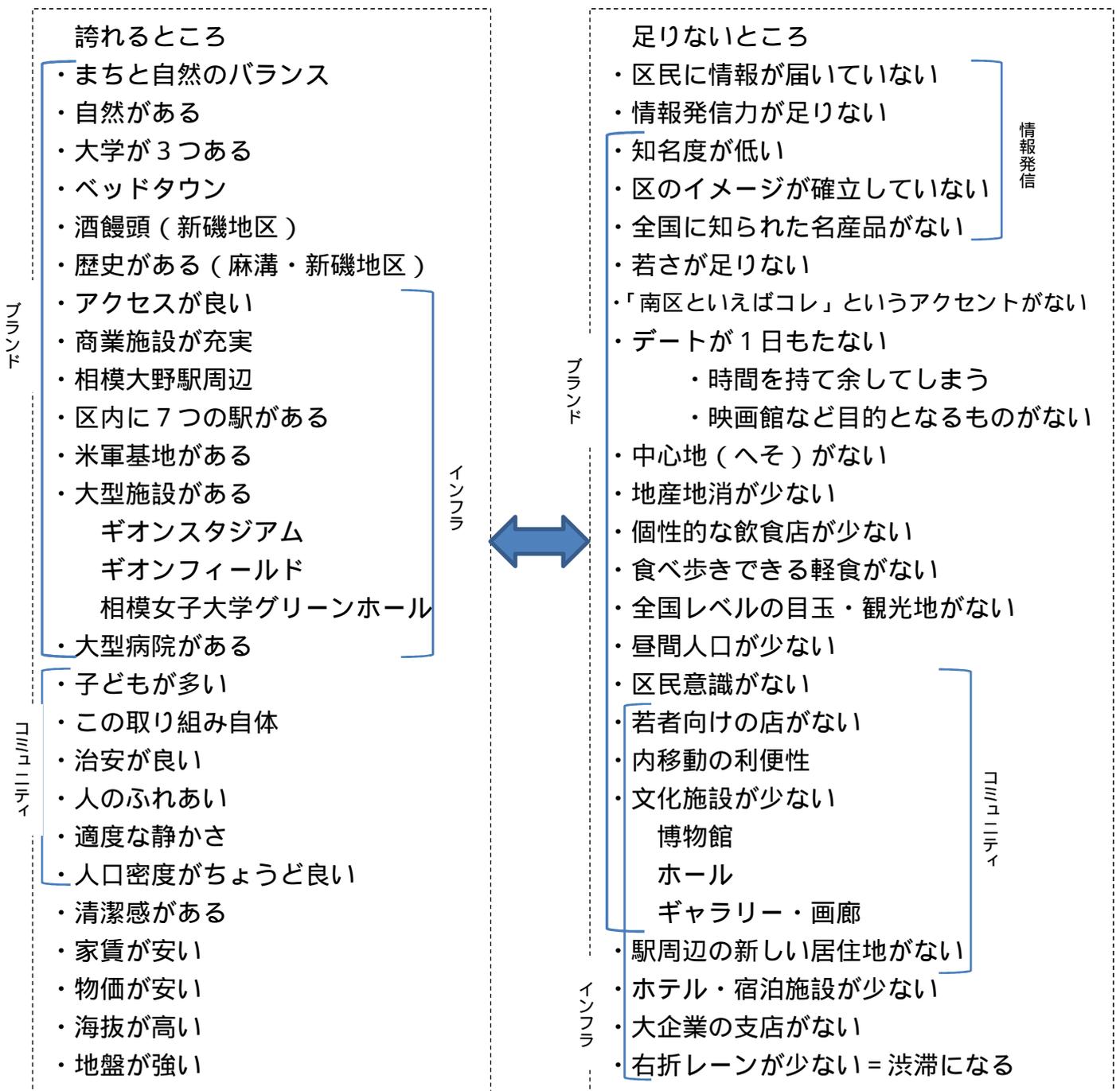
午前10:00～

会場：南区合同庁舎 講堂

【テーマ】

第2回を踏まえた今後のスケジュール調整について

【若い世代が考える『南区の誇れるところ・足りないところ』～第2回の意見から～】



【主な意見】

テーマが大きいので、どこから手をつければ良いかイメージが湧かない。

毎回、小テーマを設定し、具体的な議論を積み重ねることが必要だと思う。

次回のテーマを事前に伝え、イメージを持って会議に参加できるような体制をつくる。

各々が持つ区のイメージを具体化させるためにも、“南区を知るツアー”は有効だと思う。

明確なテーマをもとに、参考事例や基礎知識を共有することで具体的なアイデアにつながる。

必要に応じて他市・区の参考事例や、統計に基づくデータなどを提示する方向で検討。

月1回の会議では検討事項に限りがあるので、「LINE」などを活用し、スピード感や相乗効果を高めるべき。

「LINE」のグループ機能で日常的に情報共有ができる環境をつくる。

目的に対する対象が明確でない。

区民に向けて発信することで、区外にも波及していくものと考えられる。

本会の“成果”とは何なのか。

本会でさらに議論を深めるとともに、区民会議に諮り、検討を進める。

区のブランドをつくるのが若い世代のまちづくり参加促進につながるのか。

官公庁でSNSを活用していても、興味がないので若い世代は見ない。ホームページも必要がない限り見ない。

ゆるキャラなど視覚的に訴えかける媒体があると興味を持ってもらいやすいと思う。

若い世代は、投票など自分が関わったものには興味を持つと思う。

南区がドラマや映画のロケ地になると注目が集まると思う。

第4回南区若者参加プロジェクト実行委員会

日時：平成26年6月1日（日）

午前10：00～

会場：南区地域福祉交流ラウンジ

【テーマ】

「実行委員会のできること・やりたいこと」について

【概要】

第2回実行委員会で意見のあった「南区の誇れるところ・足りないところ」（参考4ページ）について、事務局が整理して内容をテーマ分けさせていただいたところだが、第4回実行委員会では、再度、若者の視点でのテーマ設定を行った。

当日は、参加した実行委員を「春」、「夏」、「秋」、「冬」の4グループに分けてテーマを検討していただいた。

次に、設定したテーマについて、実行委員会が“できること”や“やりたいこと”などを検討し、各グループの代表者から改善策や活性化方策に関する発表をしていただき、情報の共有化を図った。

【提案内容】

南区は、観光地を目指すよりも、区に対する区民の満足度や愛着の醸成、人々のつながりやコミュニティの創出、相互交流の促進等に向けた取組みを実施してはどうかという趣旨の提案があった。

各グループの主な提案内容は、次ページのとおりに。

春グループ

テーマ	意見	改善策・活性化方策
人	住んでいる人の満足度を上げる	あいさつ促進運動
	区民交流を深める	
	属性の違う者同士の交流を深める	
	活動に友達等を連れてきてもらい”つながりの輪”を広げる	
南区を発信		
利便性		

夏グループ

テーマ	意見	改善策・活性化方策
人との関わり	区民に区を知ってもらう機会をつくる	学校の授業で地元の方が地域の伝統を伝える
	学校教育の課程で”南区愛”を育む	スポーツ大会の開催、全国大会の誘致
イメージ	イベントはたくさんあるが、それ自体を知らない	お祭りフェスタ
	歴史を感じない(=新たに創出できる)	”きもキャラ”レンジャーをつくる
		相模大野駅周辺でプロジェクションマッピングを実施
		南区のレストラン本を発行 芥川賞の南区版をつくり、”作家のまち”にするなど
若者	大学と行政が連携して学生を呼び込む	ポップコーンなどの商品開発
		大学生レストランの運営
		テレビCMを作成し情報発信(”きもキャラ”が踊るなど)
環境・住環境	工業以外にも”特区”をつくる	
	日本一のベッドタウンを目指す	
	安全に遊べる	
施設		映画館をつくり、区民割引を実施する
交通		

秋グループ

テーマ	意見	改善策・活性化方策
イメージ	”そこそこ”が特徴(=住みやすい)	
	観光地になる必要はないと思う	
情報	実行委員が南区をもっと知ること、活動の幅が広がる	
	各世代が意見を言い合える場・意見交換の場が必要	ワークショップの開催 平日の日中に母親向けイベントの開催など
	「相模大野宣伝部」の取組みは興味深い	
観光・名産	名産などを創出するには長期的な視点が必要	
	観光地であることと住みやすいということは違う	
施設	各世代が求める店を商業施設に提案	アンケートやワークショップにより意見聴取を行い、施設に要望
	自分の意見が反映されるとまちに愛着が湧くと思う	
	周辺の観光地に行きやすい	
	便利さ・安心感がある	

冬グループ

テーマ	意見	改善策・活性化方策	
ブランド	人のつながりやコミュニティを創出したい	犬コン(犬を飼っている人の街コン)の開催	
	ストリートミュージシャンを育成するまちづくり	野外音楽フェスの開催	
	区民同士がコミュニケーションのとれる場所を提供すべき		1,000円で酔えるメニューを各店舗に置く
			朝活(勉強会など)
			朝ヨガの実施
			キャラ弁大会の開催
			合同運動会の開催
資源		米軍との交流イベント	
		小田急電鉄の鉄道博物館の開設	
		ギャラリー・美術館の開設	
		若者のためのボランティアマネジメント基地の設置	
情報		南区内ボランティアマネーの流通	
		南区のまち歩きマップの作成	
		GPS機能を活用した食べ歩きマップの作成	
住環境	歴史や自然を維持させる	利用者の視点に立った便利なマップの作成	
インフラ			

南区若者参加プロジェクト実行委員会 役員会での主な意見

日 時 平成26年7月12日(土)
午前10時~

会 場 南区合同庁舎4階 会議室2

【概 要】

各グループからの提案を踏まえ、方向性や事業の整理を行い、今年度の取組みを検討した。

- ・住んでいる人の満足度の向上や、相互交流の機会を創出していく必要がある。
- ・事業の実施が目的ではなく、事業実施にあたり多くの若い世代に関わってもらうことが重要である。



取組み(案)

「南区情報マップの作成」

観光資源を区内外に発信するため、南区独自の情報マップを作成する
マップ作成にあたり、実行委員が南区の調査等を実施し、南区を知るきっかけとする

マップを手にした方の“おすすめ”記入欄を設け、自由に記入してもらうことでオリジナルのマップとなるようにする。

取組み(案)

「団体対抗プレゼン大会の実施」

さまざまな世代・業種の方々の相互交流・相互理解の場として、プレゼン大会を実施する

地域の方や年配の方が考えたテーマについて、大学生などの若い世代がプレゼンを行う。

南区若者参加プロジェクト実行委員会 規約

(目的)

第1条 南区若者参加プロジェクト実行委員会(以下「本会」という。)は、「南区ビジョン」に基づき、区民と行政が一体となって行う個性や特徴を活かしたまちづくりに、若い世代が参加するような取り組みを実施することを目的とする。

(組織)

第2条 本会の構成員は、南区在住者及び在勤者、南区内にある高校・大学在籍者、南区区民会議委員などから、本会の趣旨を理解し希望する者とする。

2 18歳以下の学生(大学生を除く)を構成員とするときは、保護者の承諾を得なければならない。

(報酬)

第3条 委員に対する報酬は、無償とする。

(役員)

第4条 本会に、次の役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 1名

(3) 会計 1名

(4) 監事 2名

2 役員は、委員の互選により定める。

3 役員の任期は2年間とする。ただし、役員の任期が終了した場合、後任者が就任するまでは前任者がその職務を行うものとする。

4 役員の再任は妨げないものとする。

5 補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の仕事)

第5条 役員は、次の仕事を執行する。

2 委員長は、本会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その仕事を代理する。

4 会計は、本会の会計を総括する。

5 監事は、本会の会計事務を監査する。

(事務局)

第6条 本会の事務局は、南区区民会議所管課内に置く。

(経費)

第7条 本会の経費は、受託金、協賛金、その他の収入をもって充てる。

(会計)

第8条 本会の会計事務その他の庶務は、事務局がその任にあたる。

2 予算の執行にあたり、委員長が特に必要と認める場合は、科目相互間において資金を流用することができる。

3 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会議)

第9条 会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 会議は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 予算の審議及び決算の承認

(2) 事業計画の策定

(3) 役員の選出

(4) 規約の変更

(5) 部会の設置及び廃止

(6) その他必要な事項

3 会議の定足数は会議開催時点の委員の過半数とし、議事は出席者の過半数を得て議決する。可否同数の際は、委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めた時は、委員以外の者の会議への出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

(事業)

第10条 本会は、若い世代のまちづくりへの参加を促進するために必要な検討と事業の実施を行う。

2 事業の実施にあたって、必要があるときは部会を設置することができる。

(南区区民会議への報告)

第11条 事業の実施にあたっては、適宜、南区区民会議に報告を行う。

(部会の設置)

第12条 部会を設置する場合は、次の事項について本会の承認を得るものとし、事業完了後は実績報告、考察及び反省点等を報告しなければならない。

(1) 事業名

(2) 事業計画 (目的・事業内容・実施期間・事業費見積書)

(3) 部会構成員 (部会長、副部会長、会計等の役員及び構成員)

(部会構成員)

第 1 3 条 部会の構成員は、本会委員のほか、南区区民会議委員、南区区内高校・大学在籍者、区内在住・在勤者とする。

2 18 歳以下の学生 (大学生を除く) を部会委員とする場合は、保護者の同意を必要とする。

(その他)

第 1 4 条 この規約に定めるもののほか、本会の組織及び運営等について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成 2 6 年 4 月 1 日から施行する。

2 本会の設立当初の会議は、第 9 条第 1 項の規定にかかわらず、南区区民会議会長が招集する。

3 本会の設立当初の会計年度は、第 8 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 2 6 年 5 月 8 日から平成 2 7 年 3 月 3 1 日までとする。

第4章 第3期南区区民会議に向けて

1 第3期南区区民会議に期待する討議内容

第3期南区区民会議に期待する討議内容

「若い世代のまちづくりへの参画促進」

世代間交流・異文化交流の促進など若い世代がまちづくりに参画する仕組みづくりの検討

地域が活性化し、次代に続いていくには、若い世代のまちづくりへの参画は不可欠な要素です。また、若い世代にとっても、若い世代を見守り、育ててくれる地域の機能は、重要な存在だと考えられます。

第2期南区区民会議では、若い世代がまちづくりについて考えるきっかけづくりとして、若い世代を無作為で抽出し、討議会に参加してもらうという試みを行い、広く若い世代の考えを聴取しました。

また、相模女子大学へ「若い世代を取り込んだまちづくり」に関する調査業務を委託し、学生の視点から地域活性化方策について提案をいただきました。

その結果、地域活動の中心的な担い手と若い世代の間には認識の違いがあり、地域の意義や役割が若い世代に十分に伝わっていないという現状や、地域活動の中心的な担い手が若い世代のニーズを把握できていないという課題が浮き彫りになりました。

第3期では、区民会議の政策提案機能を生かし、“若い世代のまちづくりへの参画促進”に向けて、若い世代が地域に定着していく具体的な取組みの検討を進めていただきたいと思います。



資 料



資 料

1 南区区民会議の開催状況

第1期(平成22年7月30日～平成24年7月29日)については21回、第2期(平成24年7月30日～平成26年7月29日)については12回の区民会議を開催しました。

第2期南区区民会議の開催状況については、以下のとおりです。

(平成26年7月18日現在)

回次	開催日	出席者数	傍聴者数	審議内容
1	平成24年 8月6日	22	0	・第1期南区区民会議での取り組み等について ・第2期南区区民会議の取り組みについて
2	10月9日	19	1	・第2期南区区民会議の取り組みについて ・7地区の先進的・重点的な取り組み、重点課題について
3	12月5日	21	2	・7地区の先進的・重点的な取り組み、重点課題について ・審議テーマについて
4	平成25年 1月23日	24	2	・ワークショップ(南区の課題解決に向けた取り組みについて)
5	3月28日	24	2	・南区の課題解決に向けた取り組みについて
6	5月29日	20	21	・若い世代を取り込んだまちづくりの検討について
7	7月2日	23	2	・(仮称)無作為抽出討議会について ・情報発信について
8	10月9日	20	3	・無作為抽出討議会の開催結果について ・南区の情報発信について
9	12月9日	20	2	・若い世代のまちづくり参加促進に向けたモデル事業について ・南区の情報発信について
10	平成26年 3月6日	22	0	・(仮称)南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・学生による地域調査に関する意見交換について
11	5月8日	17	0	・(仮称)南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・「若い世代のまちづくりへの参画促進」に関する調査委託業務について ・第2期区民会議活動報告書の作成について
12	7月17日	21	1	・南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・第2期南区区民会議活動報告書(案)について
延人数		253	36	
1回あたりの平均		21.08	3.00	

【無作為抽出討議会運営委員会】

開催日	審議内容
平成25年 8月26日	・参加者の応募状況について ・会場レイアウトについて ・当日のスケジュールと役割分担について
9月12日	・当日のスケジュールと役割分担について ・当日の提供資料について
9月18日	・当日のスケジュールと役割分担について
9月22日	・無作為抽出討議会 「わいわいみんなで語ろうPart2 ~どうする？南区・語るなら今でしょ！～」

【Facebook検討委員会】

開催日	審議内容
平成25年 9月5日	・Facebookを活用した情報発信について ・開設にあたっての留意点について

【モデル事業検討委員会】

開催日	審議内容
平成25年 11月12日	・「若い世代のまちづくり参画促進」を推進するためのモデル事業について

【南区若者参加プロジェクト実行委員会】

開催日	審議内容
平成26年 3月2日	南区若者参加プロジェクト実行委員会について ・イベントの企画内容について
3月21日	・南区若者参加プロジェクト実行委員会の目的について ・若い世代が考える南区のイメージについて
4月20日	・南区若者参加プロジェクト実行委員会の規約について ・今後の検討内容について
6月1日	・活動テーマの検討について(グループ討議)
7月12日	・今後の活動テーマについて

2 南区区ビジョン

区ビジョン策定の趣旨

相模原市は、平成22年4月に政令指定都市に移行し、「緑区」、「中央区」、「南区」の3つの区が誕生しました。各区には区制を生かした市民協働の新しいまちづくりの仕組みとして「区民会議」を設置し、各地区には「まちづくり会議」が設置され、区民の皆様とともに区の特長や地域資源を生かしたまちづくりを進めていくための仕組みが整いました。

「区ビジョン」は、協働でまちづくりを進めるための指針として、区の課題、魅力、特徴を踏まえたうえで区のめざす将来像を明らかにし、その実現に向けて区民の皆様と行政がともに進めるまちづくりの基本的な方向性を示すものです。

区ビジョン策定までの取り組み

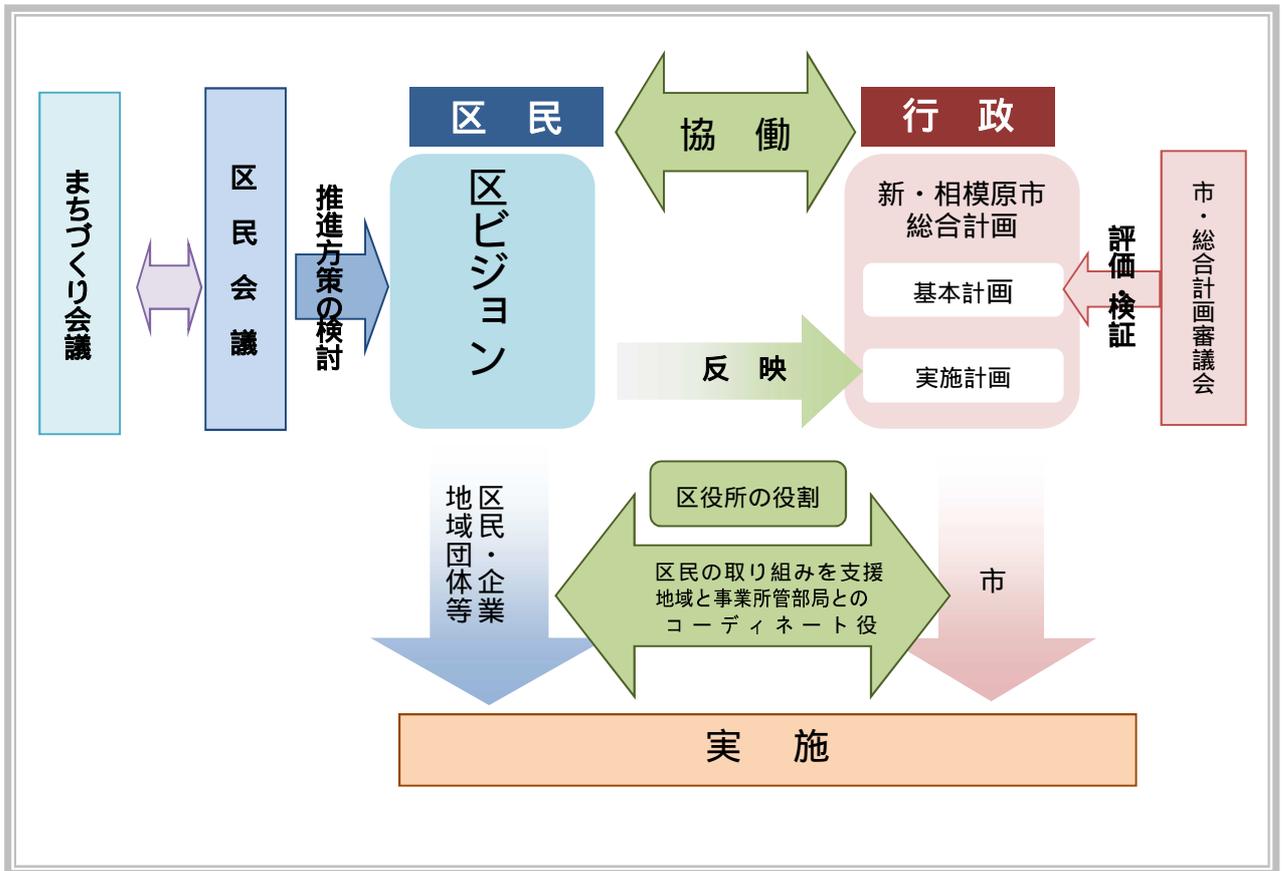
南区では、まちづくり会議との連携やワークショップ、無作為による3,000人の区民から参加を募り実施した南区区民ミーティングの開催など、広く区民の皆様にご意見を聞き入れながら検討しました。

区ビジョン推進にあたっての基本的な考え方

区ビジョンの推進にあたっては、区民と行政の協働が不可欠です。区ビジョンに掲げた取り組み等について、南区区民会議においてまちづくり会議と連携を図りながら、協働の視点から事業推進方策を検討し、区民としての取り組み等を提案するなどによって、区ビジョンの実現を図ることを基本とします。

推進のイメージについては、次ページのとおりです。

< 区ビジョン推進のイメージ >



南区のめざす将来像

区ビジョンには、南区の特色や取組みの目標を踏まえて、区民とともに創る南区の将来像が定められています。

将来像

湧きおこる7つの風 響きあう南区

湧きおこる7つの風・・・

南区には、歴史や特色を持った7つの地区（大野中、大野南、麻溝、新磯、相模台、相武台、東林）があります。そして、それぞれの地区から自発的に生まれる魅力ある地域づくりのためのさまざまな取組みを表しています。

南区の魅力の再発見と充実
情報発信
支えあう地域づくり
区民意見の反映
地域からの発想
大学との連携
都市機能の充実 など

響きあう南区・・・

これからのまちづくりで大切にしたいことは、人と人、地域と地域、自治会とNPO、区民と行政...こうしたさまざまな響きあいです。人々や団体がお互いに交流し、尊重し合い、協力し合ってまちづくりを進めることを表しています。

誰もが「南区に住み続けたい」「南区で活動し続けたい」と思えるような魅力あふれる“まち”として、成長していく姿を表しています。

将来像を実現するための区ビジョンの体系

南区のめざす将来像の実現に向け、4つの目標と各目標に2つずつ取組みの方向を定め、その推進のために共通した基本的な視点として「まちづくりの視点」を、区民各人の心がけとして「南区民プラスワン意識」を据えています。

まちづくりの視点

区民主体のまちづくりがより明確になるよう「区民が“創る”まち」をまちづくりの視点とし、その実現に向け、まちを知る まちに触れる・訪れる・参加する まちを語る・語り合うの3段階を定め、段階ごとに区民の皆さんに意識していただきたいことを掲載しています。

区のまちづくりの目標と取組みの方向

「絆でつながる賑わいのまち」「都市と自然が調和するまち」「誰もが安心して暮らせるまち」「いつまでも健康でお互いが支え合うまち」の4つのまちづくりの目標と8つの取組みの方向に分類し、それぞれ重点的な取組み項目を掲載しています。

南区民プラスワン意識

各取組みの方向ごとに、将来像や区民が創るまちの実現のため区民一人ひとりに常に心がけていただきたいことを「南区民プラスワン意識」として掲載しています。

まちづくりの視点

区ビジョンには、将来像の実現のため、103の取組み項目が定められており、区ビジョンの推進にあたっての基本的な考え方として「区民が“創る”まち」がまちづくりの視点になっています。

「区民が“創る”まち」とは

まちを知る

「まずはまちを知ることが“好き”につながります。」

都市、豊かな自然、歴史、文化、イベント、地域活動・・・
区民が多彩なまちの顔を知ることがまちづくりの第一歩！

まちに触れる・訪れる・参加する

「まちに出ることで、今まで知らなかった“出会い”があります。」

ショッピングやイベント・地域活動などまちに出かけて、
さまざまな魅力を再発見！

まちを語る・語り合う

「まちの魅力をよく知り、親しみと誇りを持って自分たちのまちを語ります。」

地域課題など、まちづくりについてお互いに話し合いまし
よう！

3 第2期南区区民会議委員名簿

選出区分	所属 選出母体等	氏名	備考
(1)区内のまちづくり会議から推薦された者	大野中地区まちづくり会議	矢沢 静雄	第1回～第5回
		森 逸雄	第6回～
	大野南地区まちづくり会議	有泉 健一	
	麻溝地区まちづくり会議	追切 睦廣	第1回～第5回
		石井 正彦	第6回～
	新磯地区まちづくり会議	岡田 茂利	
	相模台地区まちづくり会議	坂本 堯則	
	相武台地区まちづくり会議	佐藤 あつ子	
	東林地区まちづくり会議	山下 義幸	第1回～第5回
		桑野 千佐子	第6回～
(2)区内の公益活動を行う団体から推薦された者	相模原南交通安全協会	丸塚 幾男	第1回～第5回
		町田 國廣	第6回～
	相模原市民生委員児童委員協議会	大島 彰	第1回～第9回
		青木 智野	第10回～
	相模原市社会福祉法人経営者協議会	吉川 友子	
	NPO法人らいぶらいぶ	鈴木 節子	
	NPO法人相模原こもれび	高橋 孝子	第1回～第6回
		肥田 悟	第7回～
	相模原商工会議所	白井 憲二	
	相模原青年会議所	荒俣 大	
相模原市民文化財団	結城 和行		
相模原市自治会連合会	金子 匡甫	副会長	
(3)学識経験のある者	相模女子大学	松下 啓一	会長
	女子美術大学	飯村 和道	
	北里大学	小林 奈美	第1回～第8回
		大野 佳子	第9回～
(4)区内の住民	公募委員	飯田 美津雄	
	①公募委員	大谷 聡穂	
	②公募委員	飯野 明子	
(5)市長が特に必要と認める者	③伊勢丹相模原店	石塚 俊之	第1回～第10回
		今川 宙	第11回～
	④神奈川中央交通相模原営業所	山田 新一	
	⑤相模原・町田大学地域コンソーシアム	赤司 澄子	